

つくばみらい市

大堀遺跡

つくばみらい福岡地区土地造成
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和6年1月

茨城県企業局
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第471集

つくばみらい市

おお ほり
大 堀 遺 跡

つくばみらい福岡地区土地造成
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和6年1月

茨 城 県 企 業 局
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県など各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理作業を実施する組織として、昭和52年に調査課を設置して以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県企業局によるつくばみらい福岡地区土地造成事業に伴って実施した、つくばみらい市大堀遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代中期の竪穴建物跡や貯蔵穴とみられる土坑群などが確認でき、つくばみらい市福岡地区における当該時代の様相の一端が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として、広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県企業局・公益財団法人茨城県開発公社に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくばみらい市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和6年1月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 川 股 圭 之

例 言

- 1 本書は、公益財団法人茨城県開発公社の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が令和3年度に調査を実施した、茨城県つくばみらい市大字南字大堀 1989 - 1 ほかに所在する大堀遺跡（おほいりいせき）の調査報告書である。
- 2 調査期間と整理期間は以下のとおりである。
調査 令和3年7月1日～8月31日
整理 令和5年9月1日～11月30日
- 3 調査は、調査課長酒井雄一のもと、首席調査員兼班長埴厚宣、首席調査員坂本勝彦、調査員森敏彰が担当した。
- 4 整理と本書の執筆・編集は、整理課長本橋弘巳のもと、嘱託調査員池田晃一が担当した。
- 5 当遺跡の出土遺物と実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅹ系座標に準拠し、X = + 1,760 m、Y = + 18,280 mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…、西から東へ 1、2、3… と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図、一覧表などで使用した記号は、次のとおりである。

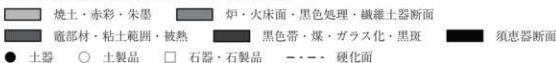
遺構 PG - ピット群 SD - 溝跡 SK - 土坑 SI - 堅穴建物跡 SX - 不明遺構
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は、原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。


■ 焼土・赤彩・朱墨 ■ 炉・火床面・黒色処理・織維土器断面
■ 竈部材・粘土範囲・被熱 ■ 黒色帯・煤・ガラス化・黒斑 ■ 須恵器断面
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 - - - 硬化面

- 4 土層解説と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム - ロームブロック 焼土 - 焼土ブロック 粘土 - 粘土ブロック

A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 ○ - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

粘 - 粘性 締 - 締まり

A - 強い B - 普通 C - 弱い ○ - 極めて

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、挿表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号とその他必要と思われる事項を記した。

- 6 堅穴建物の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向とともに、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N - 10° - E)。

- 7 整理の段階で遺構名を変更したものと欠番にしたものは、以下のとおりである。

変更 SK11 → SX 1、SK28 → SX 1 - P 1、SK32 → SI 1 - P 3、SK33 → SI 1 - P 4、

SK36 → SI 1 - P 2、SD 5 → SX 2、PG 2 - P 5 ~ P 8 → PG 3 - P 1 ~ P 4

欠番 SK 7 ~ 10・14・16・26・29・31、SD 4

目 次

| | |
|--------------|-----------|
| 序 | |
| 例 言 | |
| 凡 例 | |
| 目 次 | |
| 第1章 調査経緯 | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査経過 | 1 |
| 第2章 位置と環境 | 2 |
| 第1節 位置と地形 | 2 |
| 第2節 歴史的環境 | 2 |
| 第3章 調査の成果 | 6 |
| 第1節 調査の概要 | 6 |
| 第2節 基本層序 | 6 |
| 第3節 遺構と遺物 | 7 |
| 1 縄文時代の遺構と遺物 | 7 |
| (1) 堅穴建物跡 | 7 |
| (2) 土 坑 | 9 |
| 2 古墳時代の遺構と遺物 | 22 |
| (1) 堅穴建物跡 | 22 |
| (2) 土 坑 | 23 |
| (3) 不明遺構 | 24 |
| 3 平安時代の遺構と遺物 | 25 |
| (1) 堅穴建物跡 | 25 |
| (2) 土 坑 | 28 |
| 4 時期不明の遺構と遺物 | 31 |
| (1) 溝 跡 | 31 |
| (2) 土 坑 | 32 |
| (3) ビット群 | 35 |
| (4) 不明遺構 | 36 |
| (5) 遺構外出土遺物 | 37 |
| 第4節 総 括 | 41 |
| 写真図版 | PL 1～PL 6 |
| 抄 録 | |

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

令和2年11月27日、茨城県公営企業管理者企業局長は、茨城県教育委員会教育長あてにつくばみらい福岡地区土地造成事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は令和2年12月11日に現地踏査を、令和3年1月20・21・27日、2月24日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。令和3年3月3日、茨城県教育委員会教育長は茨城県公営企業管理者企業局長あてに、事業地内に大堀遺跡が所在することと、その取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和3年3月9日、茨城県公営企業管理者企業局長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。令和3年3月16日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県公営企業管理者企業局長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

令和3年3月24日、茨城県公営企業管理者企業局長は、茨城県教育委員会教育長あてに、つくばみらい福岡地区土地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。令和3年3月29日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県公営企業管理者企業局長あてに、大堀遺跡について、発掘調査の範囲と、その面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

令和3年5月10日、茨城県公営企業管理者企業局長は、公益財団法人茨城県開発公社を埋蔵文化財発掘調査事業の委託者とする旨を、公益財団法人茨城県教育財団理事長あてに通知した。

公益財団法人茨城県教育財団は、公益財団法人茨城県開発公社から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、令和3年7月1日から8月31日まで調査を実施した。

第2節 調査経過

大堀遺跡の調査は、令和3年7月1日から8月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

| 工程 | 期間 | 7月 | 8月 |
|----------------------|----|----|----|
| 調査準備 表土除去 遺構確認 | | ■ | |
| 遺構調査 | | ■ | ■ |
| 遺物洗浄 注写 写真整理 | | ■ | ■ |
| 補足調査 撤収 | | | ■ |

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

大塚遺跡は、茨城県つくばみらい市大字南字大塚 1989 - 1 ほかにある。

つくばみらい市は、平成 18 年に筑波郡伊奈町と谷和原村の合併により誕生した市で、茨城県の南西部に位置している。市の地形は、中央部に鬼怒川と小貝川によって形成された沖積低地（鬼怒川 - 小貝川低地）が広がり、東部は筑波・稲敷台地、西部は北相馬台地となっている。

当遺跡が立地する筑波・稲敷台地は、茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部である。西を鬼怒川 - 小貝川低地、東を桜川低地に挟まれた南北約 44km、東西約 38km の台地で、台地面は全体として北から南に傾斜している¹⁾。小貝川低地沿いの台地西側縁部では、西へ開口する樹枝状の小支谷が発達し、台地南部では西谷田川と谷田川の開析谷が発達している。台地は並走する谷によって短冊状に分断され、これらを通る川は牛久沼に流入している。地層は、貝化石を産する見和層（成田層）を基盤層として、その上に砂混じりのロームから、クロスラミナの顕著な砂あるいは砂礫層である竜ヶ崎砂礫層へ漸移する。その上層は、地点により様々変化するが、火山灰質粘土層である常総粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上層は腐植土層となっている。

当遺跡は、小貝川低地から南東方向に入り込む小支谷の東側台地縁部に立地している。遺跡範囲は、谷沿いに南北 450m、東西 150 m ほどに広がっており、今回の調査区は、その北西端部にあたる。台地平坦部の標高は約 23m で、低地との比高は約 8 m である。遺跡の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡が立地する小貝川と西谷田川に挟まれた台地の縁部には、支谷の奥に至るまで多数の遺跡が確認されている²⁾。ここでは、調査事例を基に同一台地上の周辺遺跡を中心にして各時代の様相を概観する。

旧石器時代の遺跡は、中道遺跡 (19)、和台遺跡 (21)、前田村遺跡 (27)、西ノ脇南遺跡 (30)、高野台遺跡 (34)、東耕地北遺跡 (35) などがある。多くの遺物は、表土中や遺構外からの出土であるが、前田村遺跡では、石器集中地点 1 が所が確認されており、硬質砂岩製のナイフ形石器や瑪瑙製の石刃が出土している³⁾。東耕地北遺跡でも石器製作跡が確認されている⁴⁾。

縄文時代の遺跡数は多く、周辺の 35 遺跡中、28 遺跡（第 1 表）で遺物が確認されており、時期は早期から晩期に亘っている。早期では、当遺跡に近接する中道遺跡や和台遺跡などで土器片が出土している⁵⁻⁷⁾。前期では、地点貝塚である田村貝塚 (26) がある。ハイガイやハマグリなどの鹹水産とヤマトシジミなどの汽水産の貝類が検出され、当時の環境が内湾の鹹水域から汽水域に移行したことを示している。田村貝塚の南側に位置する前田村遺跡では、堅穴建物跡 7 棟が確認されている⁸⁾。中期では前田村遺跡で堅穴建物跡 324 棟と貯蔵穴や墓とみられる多数の土坑が確認され、環状集落を構成していたことが確認されている。中期を通して一帯の拠点的な集落であったとみられる。後・晩期になると苗代山遺跡 (2)、前田村遺跡、東耕地北遺跡、その南側の中島山遺跡などで堅穴建物跡が確認されているが遺跡数は減少する。

弥生時代の遺跡数は他の時代比べて極めて少なく、高野台遺跡で土器片が確認されている程度である⁹⁾。

古墳時代になると、遺跡数の増加傾向がみられる。当時代の堅穴建物跡は、前期では前田村遺跡で26棟、中期では小貝川右岸の大谷津A遺跡で3棟、後期では和台遺跡で2棟、西ノ脇遺跡(29)で5棟、前田村遺跡で16棟が確認されている。古墳は、福岡古墳群(15)、並木古墳(24)、東楢戸古墳群(32)などがある。東楢戸古墳群は、1978年に円墳1基が調査され、埋葬施設の粘土葺が確認されており、出土土器から中期初頭頃の築造と考えられている¹⁰⁾。

奈良・平安時代になると、当地域は河内郡八部郷に属するとされている¹¹⁾。当該期の遺跡は、戸崎前遺跡(12)、上野台遺跡(18)、中道遺跡、観音前遺跡(20)、和台遺跡、前田村遺跡、同一台地の南方に位置する上街道東遺跡、鎌田遺跡などが確認されている¹²⁾。鎌田遺跡は、8世紀前葉から9世紀後葉に営まれた集落跡である。大型の建物跡や「コ」の字状または「L」字状の配置とみられる掘立柱建物跡が存在していることや、一般的集落では出土例の少ない二彩陶器や灰軸陶器などが出土していることから、公的な役割を担った有力首長層の集落と想定されている¹³⁾。前田村遺跡では、9世紀前葉から10世紀中葉にかけての集落跡が確認されているほか、土坑から和鏡と小刀と思われる鉄製品が出土している。

中世の遺跡は、当遺跡の南方の台地縁辺部に城館跡の小張城跡、板橋城跡、三條院城跡が連なるように点在している。そのほかに西ノ脇遺跡、前田村遺跡、中島山遺跡などから、中世の遺構が確認されている。

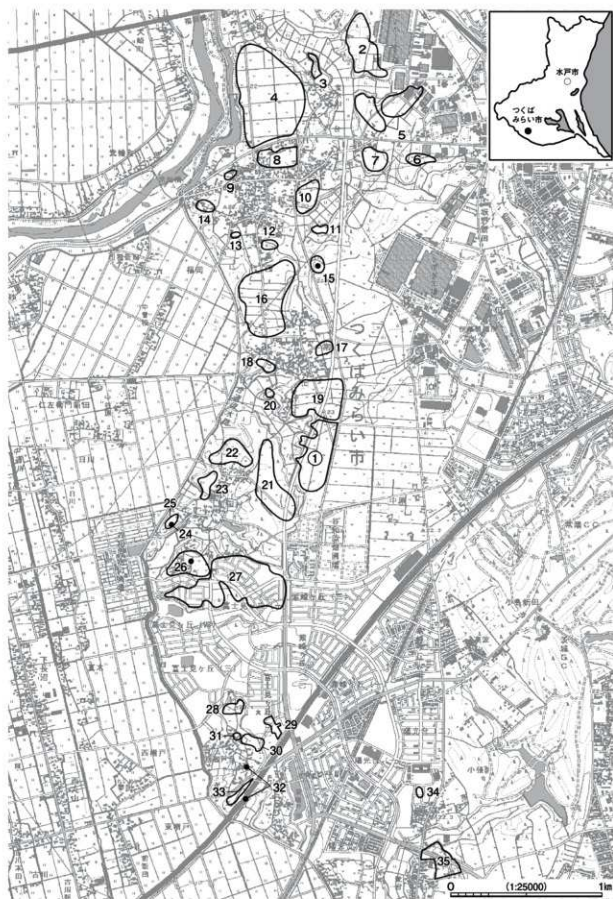
近世の遺跡は、水噴遺跡(17)、並木遺跡(25)などがあるが、調査事例が少なく、不明点が多い。

註

- 1) 斎藤英二ほか「茨城県南西部における最近の測地的変動について」『地質調査所月報』第39巻第10号 1988年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図(地名表・地図編)』2022年3月
- 3) 吉原作平「伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 西ノ脇遺跡・前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第87集 1994年3月
- 4) 茨城県教育委員会『茨城の文化財 第58集(令和元年度)』2020年3月
- 5) 渡辺久生ほか「中道遺跡」『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』2012年10月
- 6) 河野一也ほか「和台遺跡」『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』2012年3月
- 7) 河野一也ほか「和台遺跡 第2次調査」『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』2014年2月
- 8) 小林孝ほか「伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書5 前田村遺跡J・K区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第147集 1999年3月
- 9) 吉原作平ほか「伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3 高野台遺跡・前田村遺跡D・F区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第127集 1997年9月
- 10) 高根信和「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅴ』1981年3月
- 11) 中山信名『新編常陸国誌』
- 12) 茨城県教育委員会『茨城の文化財 第60集(令和3年度)』2022年3月
- 13) 川村満博「伊奈町鎌田遺跡について－奈良・平安時代を中心にして－」『伊奈町の歴史』第7号 2003年3月

参考文献

- ・谷和原村村史編さん委員会「谷和原の歴史 史料編」谷和原村教育委員会 2001年3月
・谷和原村村史編さん委員会「谷和原の歴史 通史編」谷和原村教育委員会 2003年3月



第1図 大堀遺跡周辺道跡分布図(国土地理院25,000分の1「谷田部」「藤代」)

第1表 大堀遺跡周辺遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | | 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | | |
|----|--------|-----|----|----|----|-------|-------|----|--------|----|-----|----|----|----|-------|-------|
| | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 鎌倉・桃山 | | | 江戸 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 鎌倉・桃山 |
| ① | 大堀遺跡 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 19 | 中道遺跡 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | |
| 2 | 苗代山遺跡 | | ○ | | | | | 20 | 観音前遺跡 | | ○ | | | ○ | | |
| 3 | 風崎山遺跡 | | ○ | | | | | 21 | 和台遺跡 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | |
| 4 | 西山遺跡 | | | | | | ○ | 22 | イカツチ遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 二本松遺跡 | | ○ | | | | | 23 | 玉金遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 荻砂遺跡 | | ○ | | | | ○ | 24 | 並木古墳 | | | | | ○ | | |
| 7 | 神明遺跡 | | ○ | | | | ○ | 25 | 並木遺跡 | | | | | | ○ | ○ |
| 8 | 寺町遺跡 | | ○ | | | | ○ | 26 | 田村貝塚 | | ○ | | | ○ | ○ | |
| 9 | 福岡新宿遺跡 | | ○ | | | | | 27 | 前田村遺跡 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 10 | 前畑遺跡 | | ○ | | | | ○ | 28 | 北ノ後北遺跡 | | ○ | | | | | |
| 11 | 東谷津遺跡 | | ○ | | | | | 29 | 西ノ脇遺跡 | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 12 | 戸崎前遺跡 | | | | | | ○ | 30 | 西ノ脇南遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 13 | 花輪前遺跡 | | ○ | | | | ○ | 31 | 北ノ後南遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 14 | 飯塚遺跡 | | ○ | | | | | 32 | 東橋戸古墳群 | | | | | ○ | | |
| 15 | 福岡古墳群 | | | | | | ○ | 33 | 舟戸遺跡 | | ○ | | | | | |
| 16 | 南遺跡 | | ○ | | | | ○ | 34 | 高野台遺跡 | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 17 | 水吹遺跡 | | | | | | ○ | 35 | 東耕地北遺跡 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 18 | 上野台遺跡 | | | | | | ○ | | | | | | | | | |



第2図 大堀遺跡調査区設定図(つくばみらい市都市計画図2500分の1)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

大堀遺跡は、つくばみらい市の北部に位置し、小貝川左岸の標高約20mの台地上に立地している。調査面積は742㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、竪穴建物跡4棟（縄文時代1・古墳時代1・平安時代2）、溝跡3条（時期不明）、土坑46基（縄文時代23・古墳時代1・平安時代4・時期不明18）、ピット群3か所（時期不明）、不明遺構2基（古墳時代・時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に9箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・有孔罌付土器）、土師器（坏・高台付碗・皿・器台・高坏・壺・甕・ミニチュア）、須恵器（坏・甕・瓶）、土製品（羽口）、石器（ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・剥片・石鏃・磨石・凹石・敲石・砥石）、石製品（管玉）、鉄滓などである。

第2節 基本層序

調査区南西部、標高224mの台地上平坦面（C1d6区）にテストピットを設定し、土層の観察を行った。

第1層は、極暗褐色を呈する表土層である。層厚は20～32cmである。

第2層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は4～19cmである。

第3層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は20～32cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは極めて強く、層厚は24～33cmである。層位と色調から、第2黒色帯に相当すると考えられる。

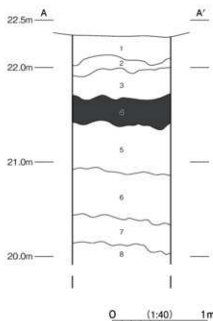
第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、黒色粒子を微量含む。層厚は46～55cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、黒色粒子を微量含む。層厚は47～55cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、鉄分を少量含む。層厚は26～28cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに強く、鉄分を少量含む。確認した層厚は、8～12cmであるが、未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。



第3図 基本土層図（全体図参照）

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

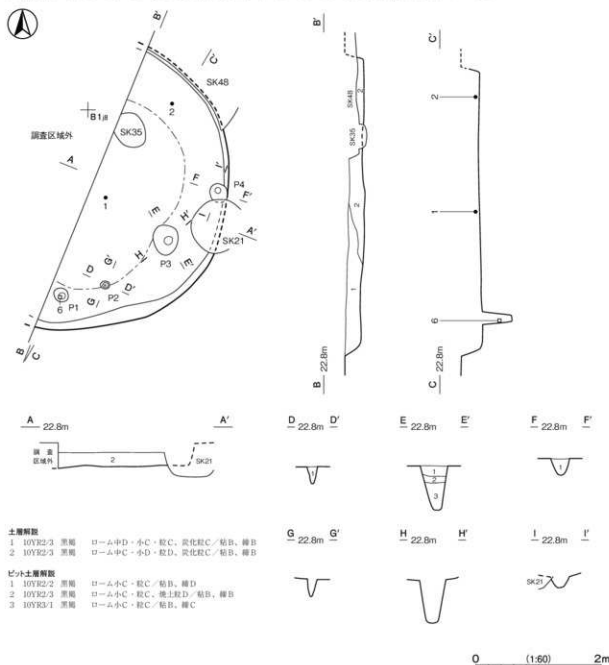
竪穴建物跡1棟、土坑23基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第4・5図 第2表 PL1・3）

位置 調査区中央部のB1j8区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34・49・50号土坑を掘り込み、第21・35・48号土坑に掘り込まれている。



第4図 第1号竪穴建物跡実測図

規模と形状 西部が調査区域外のため、確認できた規模は南北径4.77m、東西径2.20mである。平面形は、円形や楕円形と推定できる。壁は高さ24cmで、外傾している。

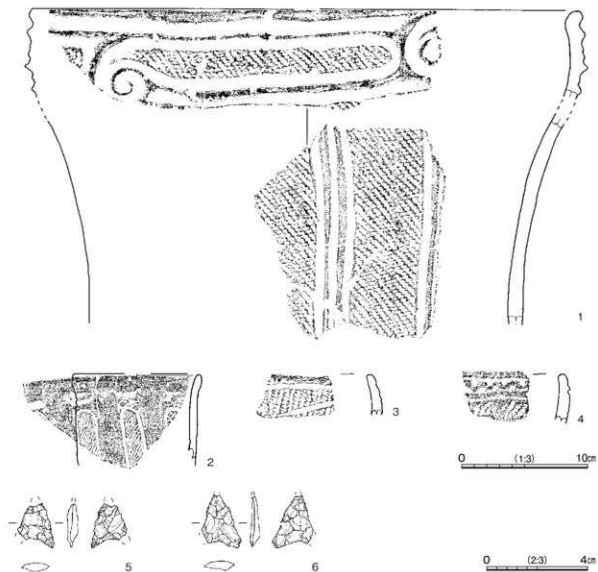
床 ほほ平坦で、壁際を除く中央部が硬化している。

ピット 4か所。P3は深さ69cmで、主柱穴と考えられる。P1・P2・P4は深さ15～48cmで、補助柱穴と考えられる。覆土は3層に分層でき、周囲からの流入土である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片98点(深鉢97、浅鉢1)、石器8点(石鏃2〔チャート製、頁岩製〕、剥片6〔頁岩製1、チャート製3、瑪瑙製2〕)が出土している。ほかに混入した土師器片3点が出土している。縄文土器片の時期は、早期7点、前期10点、中期81点で、早・前期の土器片は混入したものである。1は中央部の覆土下層と覆土中から、2は北部の覆土下層と覆土中から、それぞれ出土した破片が接合している。6はP1内の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第5図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(第5図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|-------|--------|----|------------|--------|----|---|------------|----------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | [43A] | (25.0) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄褐色 | 普通 | 口縁部卑部LR縄文縄位施文後沈帯型内文殊帯刷毛型。刷毛線3条型系。沈帯間巻き | 覆土下層 覆土 | 20% PL.3 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | [100] | (7.3) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 短位卑沈帯刷毛型内文に卑部LR縄文縄位施文区画上部1・2の刷毛状工具による刷文 | 覆土下層 覆土 | 5% PL.3 |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (3.3) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 太さの異なる異条斜縄文縄位施文後横位比縄文 | 覆土 | 5% PL.3 |
| 4 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (4.0) | - | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 口縁部卑部RL縄文縄位施文後平行沈帯2条沈帯間交互刷文文・横位沈帯 | 覆土 | 5% PL.3 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|------|-------|-----|--------|------|-------------------|--------|------|
| 5 | 石皿 | (18) | (1.4) | 0.4 | (0.75) | チャート | 凹基無蒸餾 西面押圧調整 一部欠損 | 覆土 | PL.3 |
| 6 | 石皿 | (21) | (1.6) | 0.4 | (0.97) | 頁岩 | 凹基無蒸餾 西面押圧調整 一部欠損 | P1覆土中層 | PL.3 |

(2) 土坑

23基のうち、特徴ある遺物が出土している9基について記載し、その他は実測図(第19～21図)と一覧表(第12表)で掲載する。

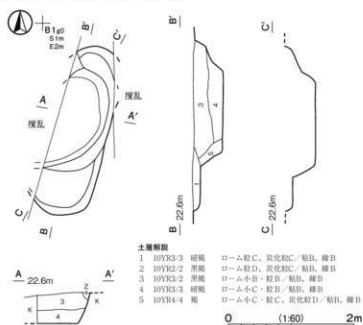
第17号土坑(第6・7図 第3表 PL.3)

位置 調査区中央部のB1g0区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部と北東部が攪乱のため、確認できた規模は長径2.74m、短径0.86mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-14°-Eである。深さは46cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾し、北部が底面からの深さ35cm、南部が底面からの深さ30cmのところ、段を有している。

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢)、石器1点(安山岩)が出土している。縄文土器片の時期は、前期13点、中期26点で、前期の土器片は混入したものである。

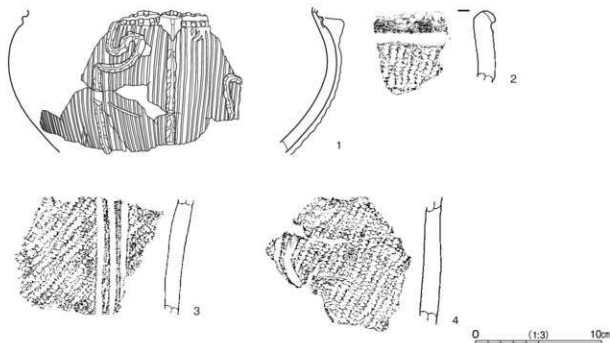


第6図 第17号土坑実測図

第3表 第17号土坑出土遺物一覧(第7図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|----|--------|----|------------|--------|----|--|------|----------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (11.3) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄褐色 | 普通 | 平截竹管による短位集合沈帯施文後純行・直線の沈帯型系。沈帯側面指捌による連続つまみ部部内形竹管による交互刷文 | 覆土 | 10% PL.3 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (5.7) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄褐色 | 普通 | 口唇部側面刷毛型刷毛。卑部LR縄文斜位施文後 | 覆土 | 5% |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (8.9) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 卑部RL縄文縄位施文後沈帯3条型系。沈帯間巻き | 覆土 | 5% |
| 4 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (10.2) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄褐色 | 普通 | 卑部縄文RL縦位施文後純行沈帯2条型系 | 覆土 | 5% |

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第7図 第17号土坑出土物実測図

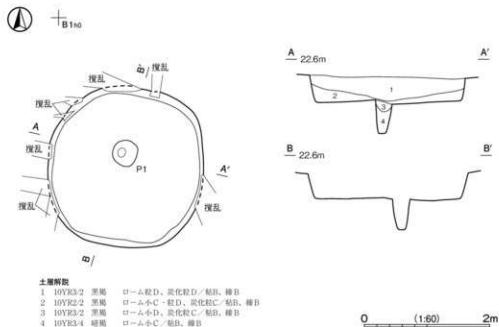
第23号土坑 (第8・9図 第4表 PL 2・3)

位置 調査区中央部のB1h0区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.65m、短径2.55mの円形である。深さは43cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

ピット P1は中央部に位置し、深さ50cmである。覆土は第3・4層で、周囲からの流入土である。

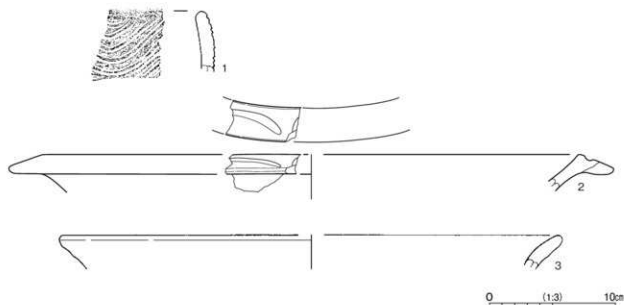
覆土 2層に分類できる。両層ともにほぼ同質の覆土であり、人為堆積の可能性が高い。



第8図 第23号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片49点(深鉢47、浅鉢2)が出土している。縄文土器片の時期は、早期12点、中期37点で、早期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第9図 第23号土坑出土遺物実測図

第4表 第23号土坑出土遺物一覧(第9図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|-------|------|----|------------|------|----|-----------------------------|------|---------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (58) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 手織竹管による連弧文 | 覆土 | 5% PL.3 |
| 2 | 縄文土器 | 浅鉢 | [426] | (29) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部沈線による弧線文 内外面ナテ後口縁部から凸面磨き | 覆土 | 5% |
| 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | [394] | (27) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内外面ナテ後口唇部から内面磨き | 覆土 | 5% |

第30号土坑(第10図 第5表 PL.3)

位置 調査区中央部のC1c8区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

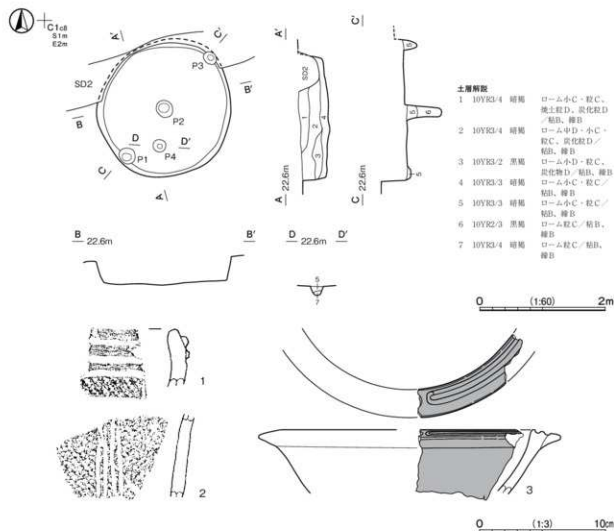
規模と形状 北部が第2号溝に掘り込まれているため、確認できた規模は長径2.27m、短径2.09mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-26°-Eである。深さは46cmで、底面は平坦である。西壁が外傾しているが、ほかの壁はほぼ直立している。

ピット 4か所。P1は南西壁際に位置し、深さ6cmで、P2は中央部に位置し、深さ70cmである。P3は北東壁際に位置し、深さ20cm、P4は南部に位置し、深さ15cmである。覆土は第5~7層で、周囲からの流入土である。

覆土 4層に分層できる。水平に堆積する不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片57点(深鉢54、浅鉢2、壺.1)が出土している。縄文土器片の時期は、早期5点、前期6点、中期46点で、早・前期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第10図 第30号土坑・出土遺物実測図

第5表 第30号土坑出土遺物一覧(第10図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 地成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|-------|------|----|------------|------|----|-------------------------------------|------|----------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (46) | - | 長石・石英・赤色砂子 | 橙 | 普通 | 単筋RI, 縄文横位施文後横位隆帯2条 隆帯間沈線・棒状工具による磨き | 覆土 | 5% |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (65) | - | 長石・石英・赤母 | 明赤褐 | 普通 | 単筋LR 縄文縦位施文後沈線4条 壺垂 | 覆土 | 10% |
| 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | [194] | (51) | - | 長石・石英・赤母 | にじみ橙 | 普通 | 口唇部沈線による格鬥区画文 外面赤彩 | 覆土 | 10% PL 3 |

第38号土坑(第11図 第6表 PL 2・3)

位置 調査区中央部のC1c8区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

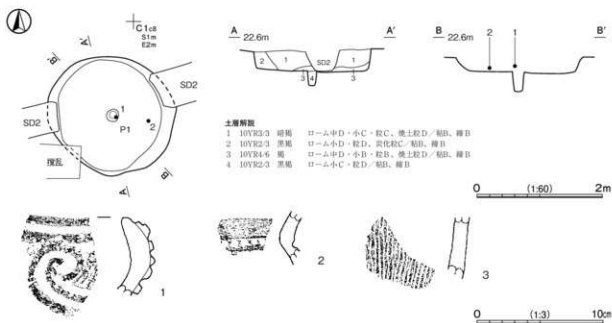
規模と形状 長径2.01m、短径1.78mの楕円形で、長径方向はN-47°-Wである。深さは35cmで、底面は平坦である。壁は北部と南部で直立し、東部と西部で外傾している。

ピット 中央部に位置し、深さ30cmである。覆土は第4層で、周囲からの流入土である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 24 点（深鉢）、石器 1 点（黒曜石製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、早期 4 点、前期 5 点、中期 15 点で、早・前期の土器片は混入したものである。1 は中央部覆土下層から、2 は東部底面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



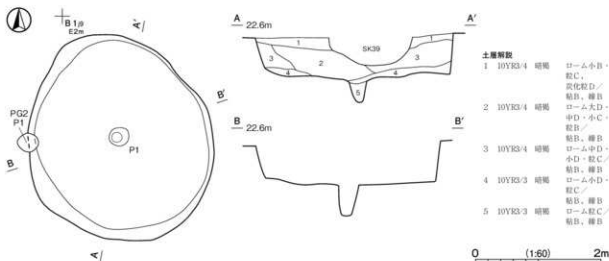
第 11 図 第 38 号土坑・出土遺物実測図

第 6 表 第 38 号土坑出土遺物一覧（第 11 図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|----|-------|----|------------|-------|----|--|------|---------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (6.1) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 縁部 RL 縄文施文・口唇部直下横筋隆起 1 条・隆起による高文・隆起部施文・棒状工具による | 覆土下層 | 5% PL 3 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (4.3) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 濃い黄褐色 | 普通 | 縁部棒状工具による刺突 2 列 | 底面 | 5% |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (4.8) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | L 形余文縦位施文 | 覆土 | 5% |

第 40 号土坑（第 12・13 図 第 7 表 PL 2・3）

位置 調査区中央部の B 1 9 区、標高約 22 m の台地平坦部に位置している。



第 12 図 第 40 号土坑実測図

重複関係 第39号土坑、第2号ピット群P1に掘り込まれている。

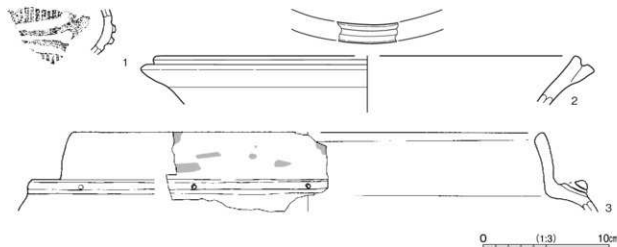
規模と形状 長径3.40m、短径2.98mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。深さは66cmで、底面はやや凹凸がある。壁は、北部から東部にかけて直立し、南部から西部にかけては外傾している。

ピット 中央部に位置し、深さ50cmである。覆土は第5層で、周囲からの流入土である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片97点（深鉢89、浅鉢2、有孔罎付土器6）が出土している。ほかに、混入した石器1点が出土している。縄文土器片の時期は、早期7点、前期19点、中期63点で、早・前期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第13図 第40号土坑出土遺物実測図

第7表 第40号土坑出土遺物一覧（第13図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 物成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|--------|---------|-------|----|-------------------|--------|----|---|------|----------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (3.6) | - | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐色 | 普通 | 沈澱のある隆部による区画文内縦位沈澱光面後隆部隆部沈澱 | 覆土 | 5% |
| 2 | 縄文土器 | 浅鉢 | (3.30) | (3.8) | - | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 明赤褐色 | 普通 | 口縁部隆部貼付・口唇部沈澱1条 | 覆土 | 5% |
| 3 | 縄文土器 | 有孔罎付土器 | (3.7.4) | (6.3) | - | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい褐色 | 普通 | 肩隆部横位隆部貼付後下方から穿孔無文・口縁部内外面横位遺き・口縁部外面赤彩残存 | 覆土 | 10% PL.3 |

第49号土坑（第14図 第8表 PL.2・3）

位置 調査区中央部のB18区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号竪穴建物、第34・48号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.93m、短径1.64mの楕円形で、長径方向はN-36°-Eである。深さは62cmで、底面はほぼ平坦である。壁は北部と南部で直立し、東部と西部で外傾している。

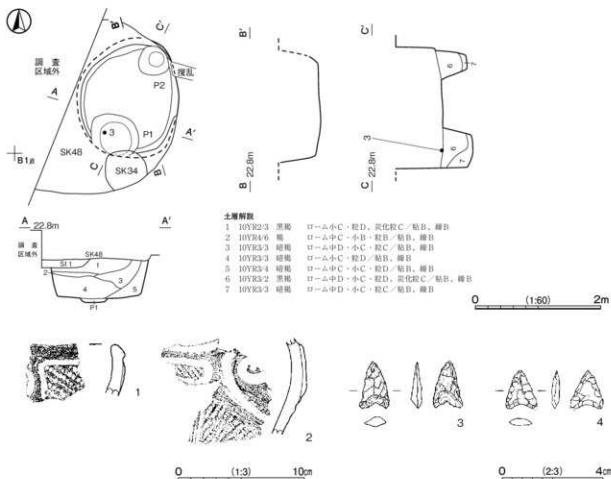
ピット 2か所。P1は南壁際に位置し、深さ50cmで、P2は北壁際に位置し、深さ45cmである。覆土は第6・7層で、周囲からの流入土である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片34点（深鉢、石器2点（チャート製石鏃））が出土している。ほかに混入した土器器片2点、石器3点が出土している。縄文土器片の時期は、早期2点、前期3点、中期29点で、早・前期の

土器片は混入したものである。3は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第14図 第49号土坑・出土遺物実測図

第8表 第49号土坑出土遺物一覧(第14図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 構成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|-----|-----|------|------|---------------|-------|--------|---|------|------|
| 1 | 陶土器 | 深鉢 | - | (41) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい肌 | 普通 | 華路 RL 縄文横穴施文段縁帯貼付 口唇部直下・段帯施文 | 覆土 | 5% |
| 2 | 陶土器 | 深鉢 | - | (79) | - | 長石・石英・紫緑・赤色粒子 | 明赤肌 | 普通 | 上部単筋 RL 縄文横穴施文 段縁部縄文・遺文貼付段縁起縁施文棒状工具による沈線 下部段起縁貼付後の段3条 RL 縄文横穴施文 | 覆土 | 5% |
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | | | 出土位置 | 備考 |
| 3 | 石鏃 | 1.9 | 1.2 | 0.5 | 0.66 | チャート | 四基無基縁 | 両面押圧潤磨 | | 覆土下層 | PL.3 |
| 4 | 石鏃 | 1.5 | 1.3 | 0.3 | 0.49 | チャート | 四基無基縁 | 両面押圧潤磨 | | 覆土 | PL.3 |

第54号土坑 (第15図 第9表 PL.3)

位置 調査区中央部のB1j8区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

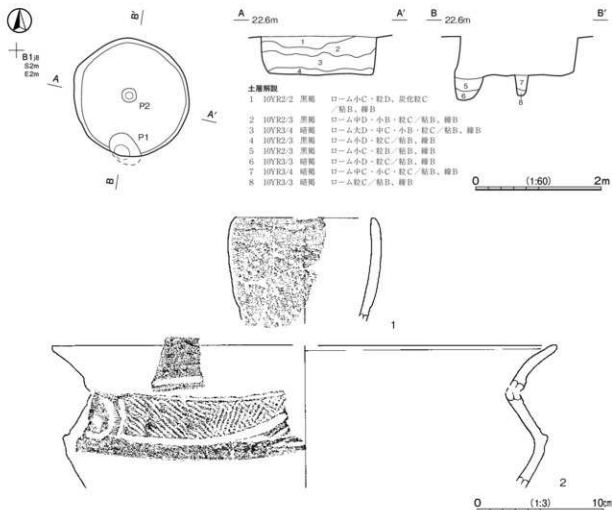
規模と形状 長径1.89m、短径1.82mの円形である。深さは62cmで、底面はほぼ平坦である。壁は南部で内彎しているが、ほかは直立している。

ピット 2か所。P1は南部の壁際に位置し、深さ34cmで、P2は中央部に位置し、深さ30cmである。覆土は第5～8層で、周囲からの流入土である。

覆土 4層に分層できる。ほぼ水平に堆積する不自然な状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片66点（深鉢60、浅鉢6）、石器1点（チャート製剥片）が出土している。ほかに混入した土師器片1点が出土している。縄文土器片の時期は、前期9点、中期57点で、前期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第15図 第54号土坑・出土遺物実測図

第9表 第54号土坑出土遺物一覧（第15図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|-------|-------|----|---------------|--------|----|--|------|-----------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | (111) | (81) | - | 長石・石英・雲母 | にがい赤褐色 | 普通 | 無文 口縁部ナデ | 覆土 | 20% PL. 3 |
| 2 | 縄文土器 | 浅鉢 | (400) | (113) | - | 長石・石英・雲母・赤色粘土 | にがい褐色 | 普通 | 頸部・胴部屈曲部隆帯による横位区画 区画内隆帯による高文 単面刻 縄文施文視座帯偏沈 | 覆土 | 20% |

第57号土坑（第16図 第10表 PL. 3）

位置 調査区中央部のC 1 a8区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号堅穴建物、第56号土坑に掘り込まれている。

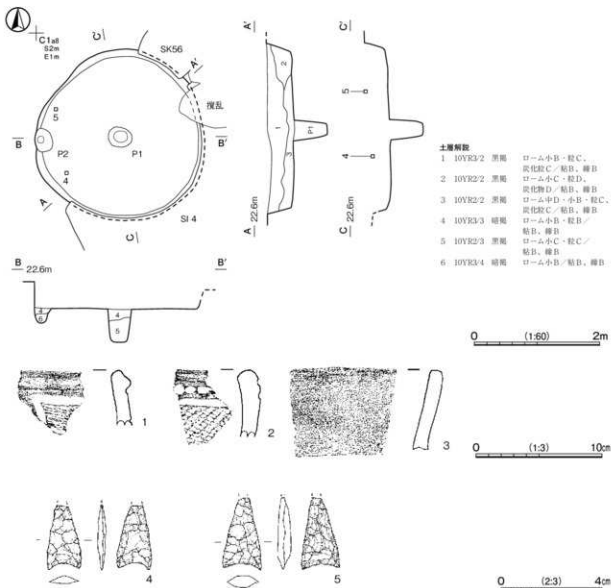
規模と形状 長径2.74m、短径2.69mの円形である。深さは42cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は中央部に位置し、深さ40cmで、P2は西壁際に位置し、深さ23cmである。覆土は第4～6層で、周囲からの流入土である。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片37点(深鉢)、石器3点(石鏃2〔チャート製、瑪瑙製〕、黒曜石製剥片1)が出土している。縄文土器片の時期は、早期18点、前期3点、中期16点で、早・前期の土器片は混入したものである。4・5は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第16図 第57号土坑・出土遺物実測図

第10表 第57号土坑出土遺物一覧(第16図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|----|-------|----|---------------|------|----|---------------------------------|------|---------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (4.4) | - | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 口縁部横位造形。京野素文横位施文後隆帯による区画文。珠帯強凸部 | 覆土 | 5% PL.3 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (5.3) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 単筋 RL 縄文縦位施文後横位沈隆。連続同文 | 覆土 | 5% |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (6.3) | - | 長石・石英・黒鉄・赤色粒子 | にじい橙 | 普通 | 無文 外面横位ナテ 内面横位磨き | 覆土 | 5% |

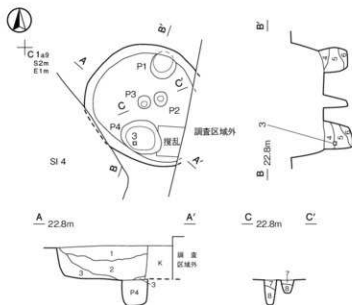
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-------|-----|-----|--------|------|-------------------|------|------|
| 4 | 石鏃 | (2.6) | 1.4 | 0.3 | (1.10) | チャート | 西基無茅織 両面押圧剥離 一部欠損 | 覆土上層 | PL 3 |
| 5 | 石鏃 | (2.9) | 1.5 | 0.3 | (1.85) | 瑪瑙 | 西基無茅織 両面押圧剥離 一部欠損 | 覆土上層 | PL 3 |

第58号土坑 (第17図 第11表 PL 2・3)

位置 調査区中央部のC 1a9区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外のため、確認できた規模は長径2.02m、短径1.80mである。平面形は、楕円形と推定でき、長径方向はN-49°-Wである。深さは56cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。



土層解説

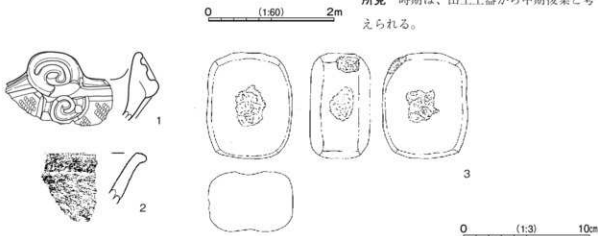
- 1 10VR2-2 黒層 ローム小C・粘B、炭化物D/粘B、雜土
- 2 10VR3-2 黒層 ローム中B・小C・粘C/粘B、雜土
- 3 10VR2-2 黒層 ローム中B・小C・粘C/粘B、雜土
- 4 10VR2-3 黒層 ローム小B・粘C/粘B、雜土
- 5 10VR3-4 暗層 ローム小B・粘B/粘B、雜土
- 6 10VR4-4 暗層 ローム小B/粘B、雜土
- 7 10VR2-3 黒層 ローム小C・粘B/粘B、雜土
- 8 10VR4-3 C2-種 ローム小C・粘C/粘B、雜土

壁は外傾している。

ピット 4か所。P 1は北壁際に位置し、深さ40cmである。P 2・P 3は中央部に位置し、深さ20cm・40cmである。P 4は南壁際に位置し、深さ46cmである。覆土は第4～8層で、周囲からの流入土である。覆土3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片40点(深鉢37、浅鉢3)、石器1点(安山岩製磨石)が出土している。縄文土器片の時期は、早期4点、前期3点、中期33点で、早・前期の土器片は混入したものである。3はP 4の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

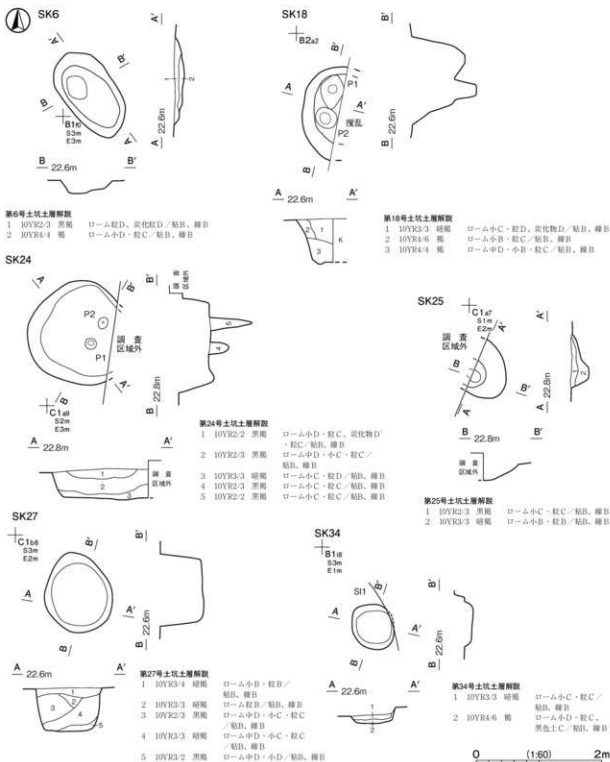


第17図 第58号土坑・出土遺物実測図

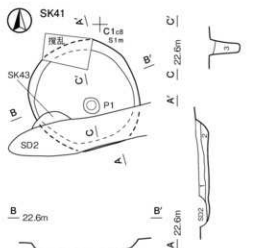
第11表 第58号土坑出土遺物一覽(第17圖)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色调 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|----|----|-------|----|---------------|----|----|----------------------|------|---------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (5.3) | - | 灰石・石英・茶母 | 橙 | 普通 | 隆帯胎台 単脚 RL 縄文陶文俵隆帯臨沁 | 覆土 | 5% PL.3 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (4.1) | - | 灰石・石英・茶母・黒色砂子 | 暗褐 | 普通 | 口唇部隆帯胎台 口縁部内外面横位ナデ | 覆土 | 5% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-----|-----|-----|--------|-----|----------------------|-------------|------|
| 3 | 磨石 | 8.4 | 6.8 | 4.8 | 489.65 | 安山岩 | 全面研磨 両面凹状 側面敲打痕 敲石兼用 | P.4 覆土中層 | PL.3 |

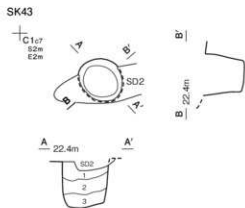


第18圖 縄文時代土坑実測図(1)



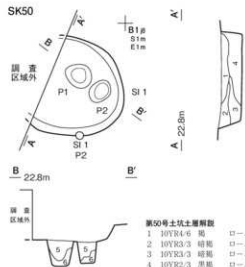
第41号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C、換土粒D、炭化粒C/粘B、雜B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒D/粘B、雜B
- 3 10YR4/3 土赤褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B



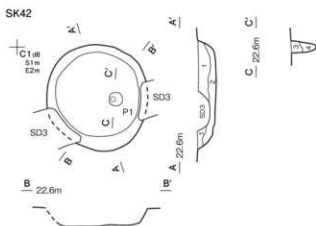
第43号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜C
- 2 10YR2/2 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B



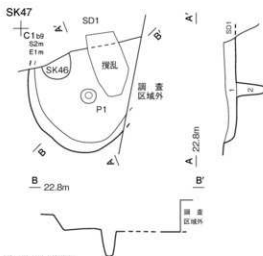
第50号土坑土層解説

- 1 10YR4/5 暗褐色 ローム中B・小B・粒C/粘B、雜A
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム大D・小C・粒D、粘B、雜B
- 4 10YR2/3 黒褐色 ローム中D・小D、炭化粒D、粘B、雜B
- 5 10YR2/3 黒褐色 ローム粒D、炭化粒D/粘B、雜C
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D/粘B、雜B



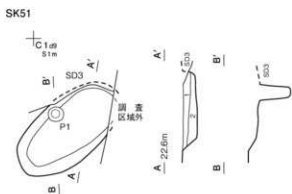
第42号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒C/粘B、雜B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小D・粒D/粘B、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム小C/粘B、雜B



第47号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR2/3 黒褐色 ローム粒C/粘B、雜B

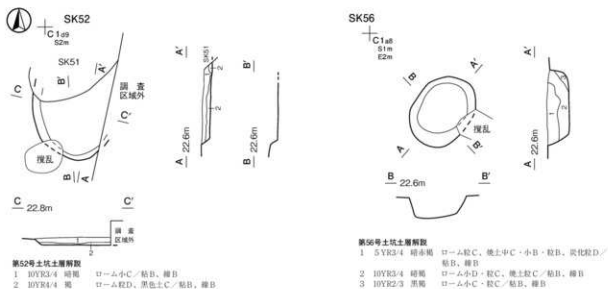


第51号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR2/3 黒褐色 ローム小B・粒B/粘B、雜B



第19図 縄文時代土坑実測図(2)



第20図 縄文時代土坑出土遺物実測図 (3)

第12表 縄文時代土坑一覧

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 概 観 | | 壁 面 | 底 面 | 層 土 | 主な出土遺物 | 時期 | 備考 |
|----|--------|---------|----------|-----------------|------------|-------|------------|-----|---------|------|--------------------|
| | | | | 長径×短径 (m) | 深さ (cm) | | | | | | |
| 6 | B 1 8 | N-27°-W | 楕円形 | 1.52 × 0.83 | 20 | 外傾 | 凹凸 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | |
| 17 | B 1 a0 | N-14°-E | [楕円形] | 2.74 × (0.86) | 46 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | |
| 18 | B 2 a2 | N-11°-E | [楕円形] | 1.50 × (0.60) | 101 | 外傾 | 本段 ベット2 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | |
| 23 | B 1 b0 | - | 円形 | 2.65 × 2.55 | 43 | 外傾 | 平坦 ベット1 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | |
| 24 | C 1 a9 | N-6°-W | [円形・楕円形] | 1.67 × (1.40) | 55 | 外傾 | 平坦 ベット2 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | |
| 25 | C 1 a7 | N-23°-E | [円形・楕円形] | 0.88 × (0.52) | 28 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | |
| 27 | C 1 b8 | N-15°-W | 楕円形 | 1.29 × 1.08 | 70 | 外傾・直立 | 平坦 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | |
| 30 | C 1 c8 | N-26°-E | [楕円形] | [2.27] × 2.09 | 46 | 外傾・直立 | 平坦 ベット4 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | 本跡→SD 2 |
| 34 | B 1 8 | N-3°-W | 楕円形 | 0.65 × 0.58 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | SK49→本跡→SI 1, SK48 |
| 38 | C 1 c8 | N-47°-W | 楕円形 | 2.01 × 1.78 | 35 | 外傾 | 平坦 ベット1 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | 本跡→SD 2 |
| 40 | B 1 8 | N-24°-W | 楕円形 | 3.40 × 2.98 | 66 | 外傾・直立 | 凹凸 ベット1 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | 本跡→SK39, PG 2 P 1 |
| 41 | C 1 c7 | - | 円形 | 1.77 × 1.75 | 17 | 外傾 | 平坦 ベット1 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | 本跡→SK43, SD 2 |
| 42 | C 1 c8 | - | 円形 | 1.72 × 1.60 | 28 | 外傾 | 平坦 ベット1 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | 本跡→SD 3 |
| 43 | C 1 c7 | N-43°-W | 楕円形 | 0.78 × 0.58 | 82 | 直立 | 平坦 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | SK41→本跡→SD 2 |
| 47 | C 1 b9 | N-5°-E | [楕円形] | (1.90) × (1.00) | 22 | 外傾 | 平坦 ベット1 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | 本跡→SK46, SD 1 |
| 49 | B 1 8 | N-36°-E | 楕円形 | 1.93 × 1.64 | 62 | 外傾・直立 | 平坦 ベット2 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | 本跡→SI 1, SK34-48 |
| 50 | B 1 8 | N-21°-E | [円形・楕円形] | 1.54 × (1.25) | 28 | 外傾・直立 | 平坦 ベット2 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | 本跡→SI 1 |
| 51 | C 1 a9 | N-41°-E | [楕円形] | 1.92 × [1.00] | 22 | 外傾 | 平坦 ベット1 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | SK52→本跡→SD 3 |
| 52 | C 1 a9 | N-22°-E | [楕円形] | (1.45) × (1.22) | 13 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | 中期後葉 | 本跡→SK51 |
| 54 | B 1 8 | - | 円形 | 1.89 × 1.82 | 62 | 直立・内傾 | 平坦 ベット2 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | |
| 56 | C 1 a8 | N-41°-E | 楕円形 | 1.20 × 0.89 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | SK57→本跡 |
| 57 | C 1 a8 | - | 円形 | 2.74 × 2.69 | 42 | 外傾 | 平坦 ベット2 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | 本跡→SI 4, SK56 |
| 58 | C 1 a9 | N-49°-W | [楕円形] | 2.02 × 1.80 | 56 | 外傾 | 平坦 ベット4 | 人為 | 縄文土器、石器 | 中期後葉 | 本跡→SI 4 |

2 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡1棟、土坑1基、不明遺構1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第4号竪穴建物跡 (第21・22図 第13表 PL1・4)

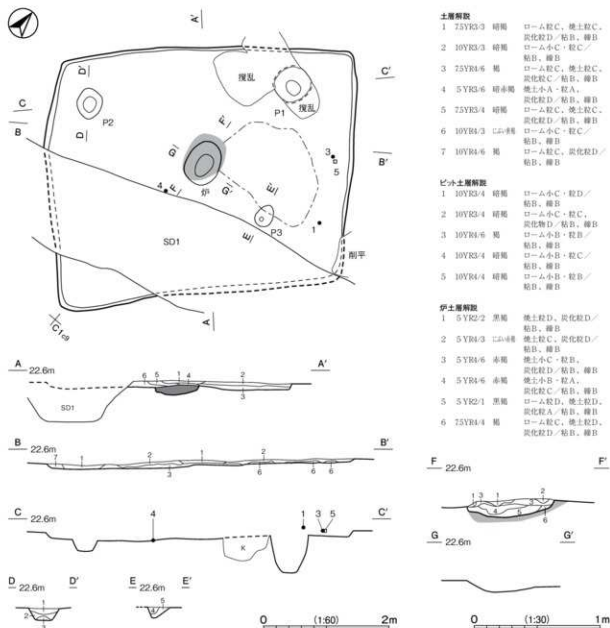
位置 調査区中央部のC1b9区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第53・55・57～59号土坑を掘り込み、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.88m、短軸4.04mの長方形で、主軸方向はN-51°-Eである。壁は高さ5～9cmで、外傾している。

床 炉から西コーナー部付近に向かってやや下り傾斜しており、5cmほどの高低差がある。炉と東壁の間が楕円形状に硬化している。

炉 中央部に位置している。長径84cm、短径60cmの楕円形で、深さ8cmほどの浅い皿状を呈した地床炉である。



第21図 第1号竪穴建物跡実測図(1)

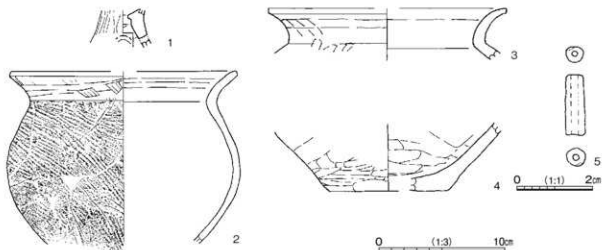
炉床面は赤変硬化している。

ピット 3か所。P1・P2は深さ56cm・18cmで、主柱穴と考えられる。P3は径36cm、深さ18cmで、性格は不明である。

覆土 7層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片60点(器台1、甕59)、石製品1点(緑色凝灰岩製管玉)が出土している。ほかに混入した縄文土器片73点、石器4点、礫2点、剥片4点が出土している。1は東部、3・5は北東壁際の覆土下層から、4は中央部の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉と考えられる。



第22図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図

第13表 第4号堅穴建物跡出土遺物一覧(第22図)

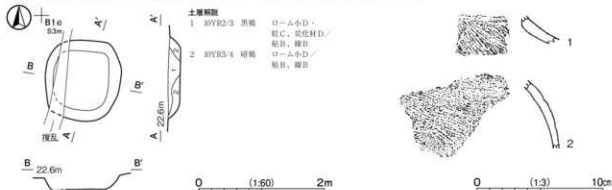
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|---------|-------|------|----|---------------|-----|----|--------------------------------|------|----------|
| 1 | 土師器 | 器台 | - | (30) | - | 長石・石英・赤色粒子・粗體 | 明赤褐 | 普通 | 外面面位へラ磨き 内面横位へラナデ 脚部三方凹溝なし | 覆土下層 | 10% PL 4 |
| 2 | 土師器 | 甕 [177] | (136) | - | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部外面斜位ハケ目横位ナデ 体部外面斜位叩き 内面横位ナデ | 覆土 | 60% PL 4 |
| 3 | 土師器 | 甕 [190] | (41) | - | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部外面斜位・体部外面横位へラナデ 内面横位ナデ | 覆土下層 | 5% |
| 4 | 土師器 | 甕 - | (49) | [92] | - | 長石・石英・赤砂 | 明赤褐 | 普通 | 体部横位へラナデ 底部外面へラ磨り後へラナデ | 床面 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-----|---------|---------|------|-------|----------------------------------|------|------|
| 5 | 管玉 | 2.4 | 0.7-0.8 | 0.6-0.7 | 2.0g | 緑色凝灰岩 | 全面磨き 一方からの穿孔。孔径：上面0.3cm、下面0.25cm | 覆土下層 | PL 4 |

(2) 土坑

第3号土坑(第23図 第14表 PL 4)

位置 調査区中央部のB1㊦区、標高約22mの台地平坦部に位置している。



第23図 第3号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長軸1.29m、短軸1.20mの隅丸方形である。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片4点(壺1、甕3)が出土している。ほかに混入した縄文土器片9点が出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉と考えられる。

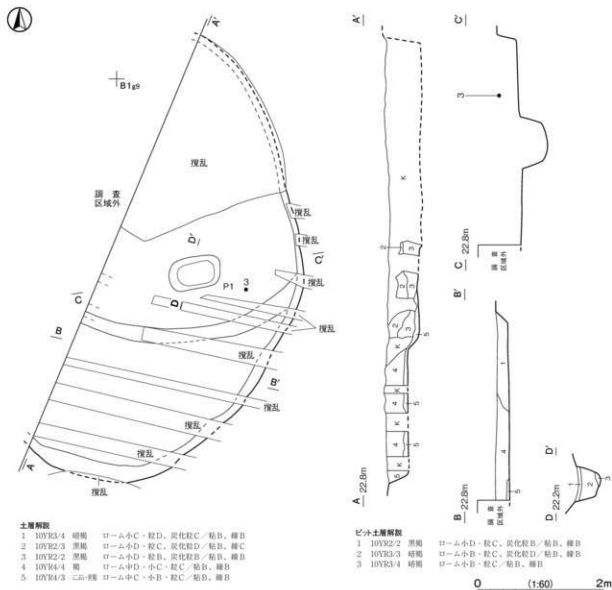
第14表 第3号土坑出土遺物一覧(第23図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 | |
|----|-----|----|----|-------|----|------------|-----|----|-----------------|---------|----|---------|
| 1 | 土師器 | 壺 | - | (22) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 底部外面横紋沈着 内面ヘラナデ | 体部外面ハケ目 | 覆土 | 5% PL.4 |
| 2 | 土師器 | 甕 | - | (5.4) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 黒褐色 | 普通 | 体部外面ハケ目 内面ヘラナデ | | 覆土 | 5% |

(3) 不明遺構

第1号不明遺構(第24・25図 第15表 PL.2・4)

位置 調査区中央部のB1h9区、標高約22mの台地平坦部に位置している。



第24図 第1号不明遺構実測図

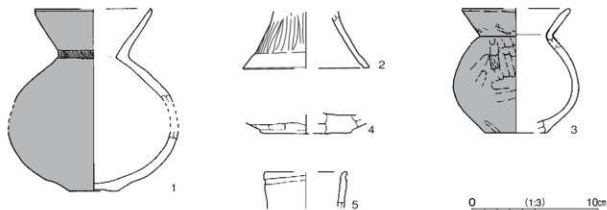
規模と形状 西半部が調査区域外で、北部が攪乱のため、確認できた規模は長径5.75m、短径3.07mで、楕円形と推定できる。深さは南部が35cm、中央部が50cmで、底面は有段である。壁は外傾している。

ピット 中央部やや北寄りに位置している。長径83cm、短径50cmの楕円形である。深さは40cmで、底面は平坦で、硬化している範囲は確認できなかった。壁は外傾している。性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片83点(坏2、高坏2、壺42、甕35、ミニチュア。2)が出土している。ほかに混入した縄文土器片103点、須恵器片1点、陶器片1点、石器12点が出土している。3は東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉と考えられる。性格は不明である。



第25図 第1号不明遺構出土遺物実測図

第15表 第1号不明遺構出土遺物一覧(第25図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|-------|-------|--------|--------|------------|------|----|------------------------------------|------|----------|
| 1 | 土師器 | 壺 | [9.0] | [14.4] | 3.9 | 長石・石英・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部外面縦位ヘラナデ 胴部・体部外面縦位ハケ目後ヘラナデ 外面赤彩 | 覆土 | 30% PL.4 |
| 2 | 土師器 | 高坏 | - | (4.5) | [10.0] | 長石・石英・赤色粒子 | にぶ黄橙 | 普通 | 口唇端部ヘラナデ 体部外面縦位ヘラ磨き | 覆土 | 10% PL.4 |
| 3 | 土師器 | 壺 | [8.2] | (9.8) | [5.0] | 長石・石英・赤色粒子 | にぶ赤褐 | 普通 | 体部外面下部縦位ヘラナデ 上部ハケ目後縦位ヘラナデ 外面赤彩 | 覆土上層 | 30% PL.4 |
| 4 | 土師器 | 甕 | - | (1.6) | [7.2] | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部外面下部ヘラ倒り後斜位ハケ目 底部外面ナデ | 覆土 | 5% |
| 5 | 土師器 | ひねり土器 | [6.4] | (2.9) | - | 長石・石英・角閃石 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部縦位子ナデ 体部外面縦位子ナデ 壺下口縁2条以上 | 覆土 | 10% PL.4 |

3 平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡2棟、土坑4基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第2号竪穴建物跡(第26図 第16表 PL.1・4)

位置 調査区北部のA2区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部と西部が調査区域外のため、確認できた規模は南北軸3.75m、東西軸1.65mである。平面形は、方形や長方形と推定でき、主軸方向はN-13°-Eである。壁は高さ27cmで、外傾している。

床 確認できた床は、ほぼ平坦で、壁際を除く中央部が硬化している。

竪 北壁に位置している。大きく攪乱を受けており、右袖と火床部の一部が遺存している。火床面はロームブ

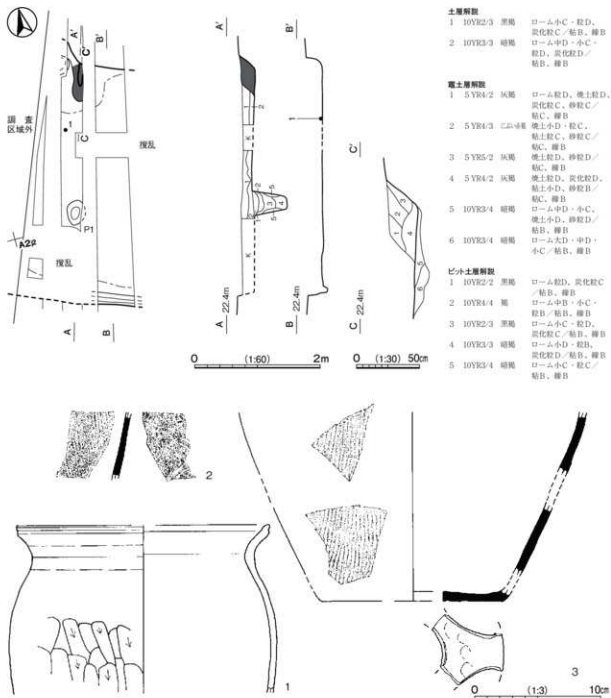
ロックと砂粒を含む第5・6層を埋して構築している。袖部は砂質粘土粒子が主体で、第4層を基部とし、その上に第1～3層を奥壁からブロック状に貼り付けて構築している。

ピット P1は中央部の南寄りに位置している。深さ56cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片33点(坏3、甕30)、須恵器4点(甕1、瓶3)が出土している。ほかに混入した縄文土器片15点、石器1点が出土している。1は中央部と竈前面の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第26図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第16表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第26図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|-------|-------|-------|------------|------|----|-----------------------------|------|----------|
| 1 | 土師器 | 甕 | [200] | [133] | - | 長石・石英・赤色粘土 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部横位ナテ 体部外面縦位ヘラ傾り | 甕土下層 | 30% PL.4 |
| 2 | 須恵器 | 甕 | - | [53] | - | 長石 | 灰黄 | 普通 | 外面縦位平行印キ・自然燃 内面同心円状の高て具痕 | 甕土 | 5% PL.4 |
| 3 | 須恵器 | 甕 | - | [151] | [144] | 長石・石英・黒緑 | 灰 | 普通 | 体部外面縦位平行印キ 内面ナテ 底部外面節部取 5孔式 | 甕土 | 5% PL.4 |

第3号竪穴建物跡 (第27・28図 第17表 PL.1-4)

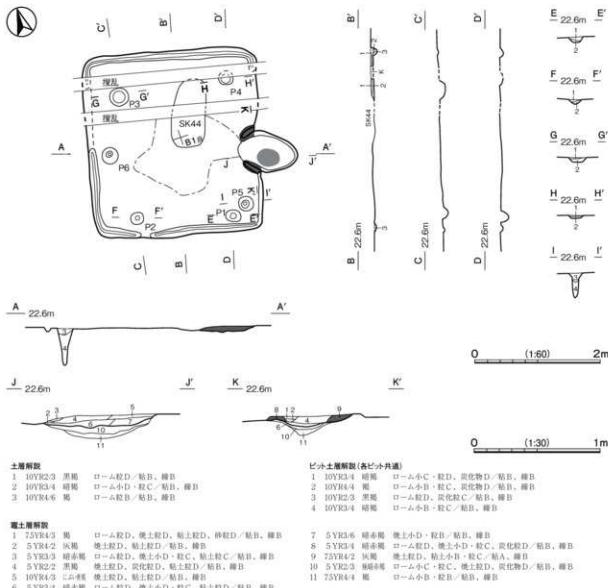
位置 調査区北部のB19区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第44号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.94m、短軸2.72mの方形で、主軸方向はN-104°-Eである。北壁から東壁にかけての一部の壁は高さ4~6cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前面から中央部にかけての狭い範囲が硬化している。東壁を除いて、壁溝が巡っている。

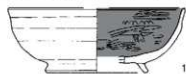
竈 東壁の中央部やや南寄りに位置している。規模は、焚口部から煙道部まで96cmで、燃燒部幅は53cmである。



第27図 第3号竪穴建物跡実測図

竈は地山を15cmほど掘りくぼめ、第10・11層を埋土して整地している。袖部は、粘土ブロックを含んだ第8・9層を積み上げて構築している。火床部は楕円形を呈し、床面よりも若干くぼんでいる。火床面は第10層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に70cmほど張り出して、外傾している。

ピット 6か所。P1～P4は、深さ5～12cmで、深さはないが配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ38cmで、性格は不明である。P6は深さ56cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。



第28図 第3号竈穴建物跡出土遺物実測図

第17表 第3号竈穴建物跡出土遺物一覧(第28図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 使用 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|------|-----|-----|----------|----|----|--------------|------------|----------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 1139 | 5.1 | 7.8 | 長石・石英・炭屑 | 橙 | 普通 | 口縁部・体部外面ロケナテ | 内面へうろつき・覆土 | 20% PL 4 |

第18表 平安時代竈穴建物跡一覧

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 長軸×短軸(m) | 壁高 (cm) | 床面 整齊 | 内部施設 | | | | | 覆土 | 主な出土遺物 | 時期 | 備考 | |
|----|------|----------|--------|----------------|------------|----------|------|-----|-----|----|----|----|--------|-----|--------|---------|
| | | | | | | | 支柱穴 | 出入口 | ピット | 貯蔵 | 貯蔵 | | | | | |
| 2 | A 2区 | N-13°-E | 方形・長方形 | 375 × 146 | 27 | 平里 | 一部 | - | 1 | - | 北壁 | - | 自然 | 土師器 | 9世紀中葉 | |
| 3 | B 1区 | N-104°-E | 方形 | 294 × 272 | 4-6 | 平里 | 不明 | 4 | 1 | 1 | 東壁 | - | 不明 | 土師器 | 10世紀中葉 | 本図→SK44 |

(2) 土坑

第5号土坑(第29図 第19表 PL 4)

位置 調査区中央部のB1g0区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部が掘乱のため、確認できた規模は長径1.04m、短径0.73mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-50°-Eである。深さは27cmで、底面は若干の凹凸がある。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片6点(坏1、甕5)、須恵器1点(甕)が出土している。ほかに混入した縄文土器片1点出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第29図 第5号土坑・出土遺物実測図

第19表 第5号土坑出土遺物一覧 (第29図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|-------|------|------|------------|----|----|-----------------------|------|---------|
| 1 | 土師器 | 坏 | [128] | [30] | - | 長石・石英 | 細灰 | 普通 | 外面ロクロナデ 内面ヘラ筋き 内外面黒色焼 | 覆土 | 10% |
| 2 | 須恵器 | 甕 | - | [48] | [74] | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 外面斜位種子目叩き | 覆土 | 5% PL.4 |

第19号土坑 (第30図 第20表 PL.4)

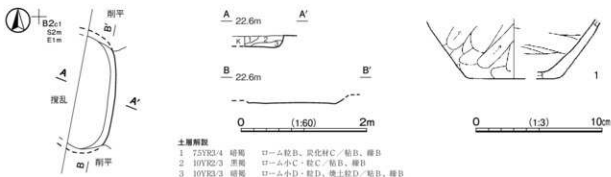
位置 調査区中央部のB2c1区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北壁と南壁は削平され、西半部が攪乱のため、確認できた規模は長径1.75m、短径0.62mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-6°-Eである。深さは18cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片6点(甕)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第30図 第19号土坑・出土遺物実測図

第20表 第19号土坑出土遺物一覧 (第30図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|----|------|------|------------|----|----|-----------------------------------|------|---------|
| 1 | 土師器 | 甕 | - | [48] | [74] | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部外面斜位ヘラ筋き 体部内面横位ヘラナデ 底部外面ヘラ筋り後ナデ | 覆土 | 5% PL.4 |

第35号土坑 (第31図 第21表 PL.4)

位置 調査区中央部のB1j8区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

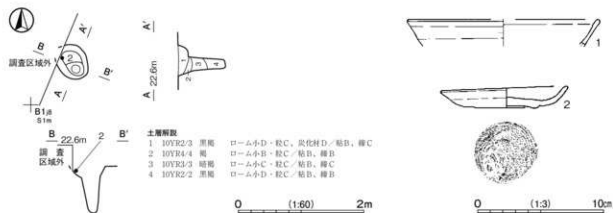
重複関係 第1号竅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部が調査区域外のため、確認できた規模は長径0.58m、短径0.47mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN-27°-Wである。深さは16cmで、底面はほぼ平坦であるが、南東壁際に径20cm、深さ58cmのピットを確認した。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。水平に堆積する不自然な状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片4点(坏1、皿3)が出土している。ほかに混入した縄文土器片2点出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第31図 第35号土坑・出土遺物実測図

第21表 第35号土坑出土遺物一覧(第31図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 地成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|-------|------|----|---------------|----|----|-------------------------|------|----------|
| 1 | 土師器 | 杯 | [150] | (21) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内外面口クロナデ | 覆土 | 5% |
| 2 | 土師器 | 皿 | 99 | 1.7 | 50 | 長石・石英・苔母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部・底部外面口クロナデ 底部外面回転糸切り | 覆土上層 | 80% PL 4 |

第48号土坑(第32・33図 第22表 PL 4)

位置 調査区中央部のB18区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

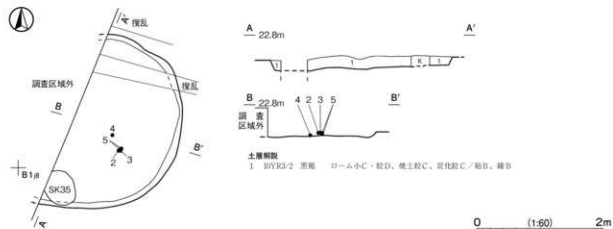
重複関係 第1号堅穴建物跡、第34・49号土坑を掘り込み、第35号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外のため、確認できた規模は長径288m、短径1.72mである。平面形は円形あるいは楕円形と推定でき、長径方向はN-20°-Eである。深さは18cmで、底面はやや凹凸がある。壁は外傾している。

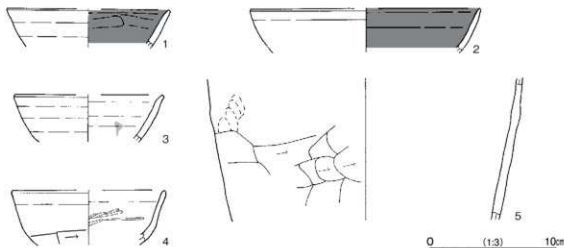
覆土 単一層のため、人為堆積の可能性が高い。

遺物出土状況 土師器片8点(杯5、甕3)が出土している。ほかに混入した縄文土器片2点が出土している。2~5は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第32図 第48号土坑実測図



第33図 第48号土坑出土遺物実測図

第22表 第48号土坑出土遺物一覧(第33図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|-------|--------|----|---------------|-------|----|-----------------------------|------|----------|
| 1 | 土師器 | 坏 | [128] | (3.0) | - | 長石・石英 | にぶい・橙 | 普通 | 口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラナデ・黒色処理 | 覆土 | 10% |
| 2 | 土師器 | 坏 | [182] | (3.5) | - | 長石・石英・灰母 | にぶい・靑 | 普通 | 内外面ロクロナデ 体部内面ヘラナデ・黒色処理 | 底面 | 10% |
| 3 | 土師器 | 坏 | [116] | (3.7) | - | 長石・石英・角閃石 | にぶい・靑 | 普通 | 内外面ロクロナデ 体部内面ヘラナデ・朱墨痕 | 底面 | 10% |
| 4 | 土師器 | 坏 | [120] | (4.3) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内外面ロクロナデ 体部外面ヘラナデ・内面ヘラナデ | 底面 | 20% |
| 5 | 土師器 | 葉 | - | (11.2) | - | 長石・石英・灰母・赤色粒子 | にぶい・靑 | 普通 | 体部外面横位ヘラ削り 指頭面 内面横位ナデ | 底面 | 10% PL.4 |

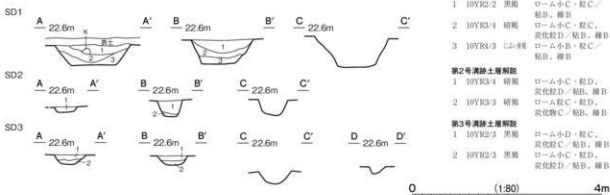
第23表 平安時代土坑一覧

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 時期 | 備考 |
|----|--------|---------|----------|-----------------|-----------|----|----|----|--------|--------|---------------------------|
| | | | | 長径×短径 (m) | 深さ (m) | | | | | | |
| 5 | B 1 g9 | N-50°-E | [楕円形] | 1.04 × 0.73 | 27 | 外傾 | 凹凸 | 人為 | 土師器 | 9世紀中葉 | |
| 19 | B 2 c1 | N-6°-E | [楕円形] | [1.75] × [0.62] | 18 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | 9世紀代 | |
| 35 | B 1 8 | N-27°-W | 楕円形 | 0.58 × 0.47 | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | 10世紀後葉 | SI 1 → 本跡 |
| 48 | B 1 8 | N-30°-E | [円形・楕円形] | 2.88 × [0.72] | 18 | 外傾 | 凹凸 | 人為 | 土師器 | 10世紀中葉 | SI 1, SK34-49 → 本跡 → SK35 |

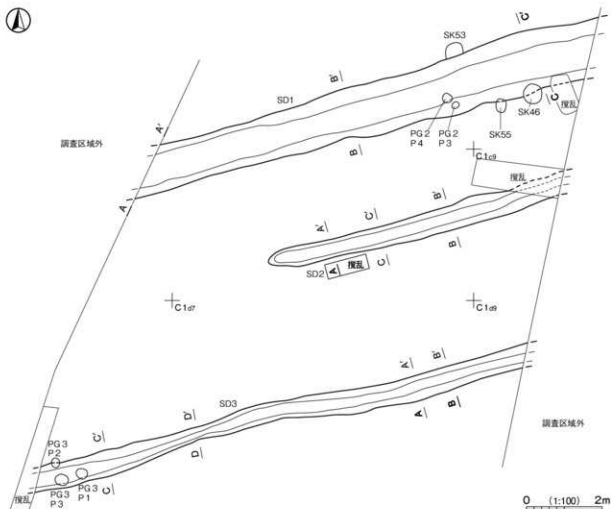
4 時期不明の遺構と遺物

溝跡3条、土坑18基、ピット群3か所、不明遺構1基を確認した。以下、実測図と一覧表で記載する。

(1) 溝跡(第34・35図 第24表 PL.2)



第34図 第1・2・3号溝跡実測図(1)

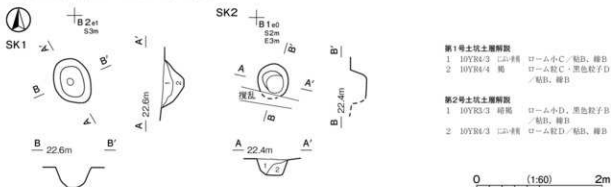


第35図 第1・2・3号溝跡実測図(2)

第24表 時期不明の溝跡一覧

| 番号 | 位置 | 方向 | 平面形 | 縦 横 | | | 断面 | 壁面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 | |
|----|-----------|---------|-----|---------|---------|--------|-------|-----|----|--------|------------------|---------------------------------------|
| | | | | 長さ(m) | 上幅(cm) | 下幅(cm) | | | | | | 深さ(cm) |
| 1 | C1c6~C1b9 | N-75°-E | 直線状 | (12.10) | 108~162 | 55~85 | 40~65 | 混合形 | 外壁 | 人為 | 縄文土器 土師器 須恵器 石製品 | SI 4, SK46-47-53-55-59 →本跡→ PG2 P3・P4 |
| 2 | C1c7~C1c9 | N-76°-E | 直線状 | (7.20) | 40~72 | 21~30 | 12~33 | 混合形 | 外壁 | 人為 | 縄文土器 土師器 石器 | SK30-38-41-43 →本跡 |
| 3 | C1c6~C1d9 | N-76°-E | 直線状 | (13.04) | 35~70 | 10~42 | 20~29 | 混合形 | 外壁 | 人為 | 縄文土器 土師器 | SK42-51 →本跡 → PG3 P1~P3 |

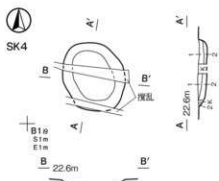
(2) 土坑 (第36~38図 第25表)



第36図 時期不明の土坑実測図(1)

- 第1号土坑土層解説
- 1 10YR4/3 土赤層 ローム小C、粘B、雜B
 - 2 10YR4/4 黄 ローム粒C、黑色粒子D、粘B、雜B

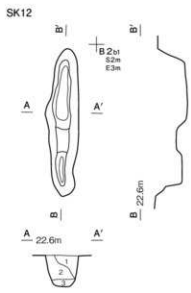
- 第2号土坑土層解説
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小D、黑色粒子B、粘B、雜B
 - 2 10YR4/3 土赤層 ローム粒D、粘B、雜B



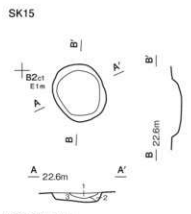
第4号土坑土層解説
 1 10YR4/3 土砂層 ローム小C / 粘B、礫B
 2 10YR4/6 泥 ローム粒C / 粘B、礫B



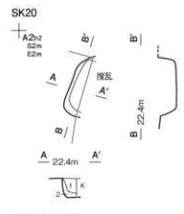
第13号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒泥 ローム小C・粒D、炭化粒C / 粘B、礫B
 2 10YR3/4 暗泥 ローム小C・粒B / 粘B、礫B
 3 10YR4/6 泥 ローム中C・小B・粒B / 粘B、礫B



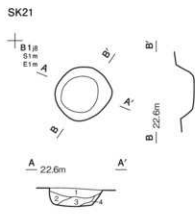
第12号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒泥 ローム粒D、炭化粒C / 粘B、礫B
 2 10YR3/3 暗泥 ローム小B・粒C、炭化粒D / 粘B、礫B
 3 10YR4/4 泥 ローム中D・小B・粒C / 粘B、礫B



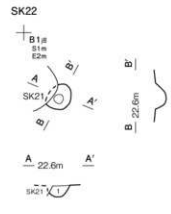
第15号土坑土層解説
 1 10YR4/6 泥 ローム小C・粒B、粘土小C・粒C、砂粒B / 粘B、礫B
 2 10YR2/3 黒泥 ローム小D・粒C、炭化粒B / 粘B、礫B
 3 10YR3/3 暗泥 ローム小C・粒B / 粘B、礫B



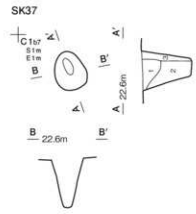
第20号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒泥 ローム小D・粒C、炭化粒C / 粘B、礫B
 2 10YR2/2 黒泥 ローム中C / 粘B、礫B



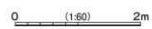
第21号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒泥 ローム小C・粒B / 粘B、礫B
 2 10YR3/4 暗泥 ローム小D・粒B / 粘B、礫B
 3 10YR2/2 黒泥 ローム小C・粒B / 粘B、礫B
 4 10YR4/3 土砂層 ローム小D・粒C / 粘B、礫B



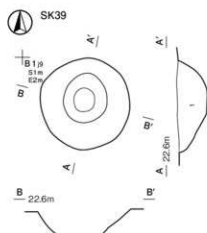
第22号土坑土層解説
 1 10YR3/3 暗泥 ローム小D・粒C / 粘B、礫B



第37号土坑土層解説
 1 10YR4/3 土砂層 ローム中B・小B・粒C、炭化粒D / 粘C、礫D
 2 10YR2/2 黒泥 ローム小C・粒C、炭化粒D / 粘B、礫B
 3 10YR2/3 黒泥 ローム小C・粒C / 粘B、礫B

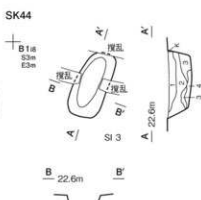


第37図 時期不明の土坑実測図 (2)



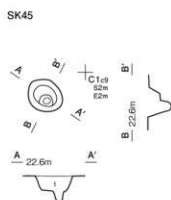
SK39号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小C・粒D、炭化粒C / 粘B、粘B



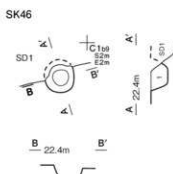
SK44号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒D / 粘B、粘B
 2 10YR3-2 黒褐色 ローム小C・粒D / 粘B、粘B
 3 10YR2-2 黒褐色 ローム中D・小D・粒C / 粘B、粘B
 4 10YR4-6 褐色 ローム中B・小C・粒B / 粘B、粘B



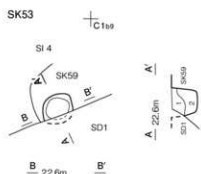
SK45号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小C・粒C / 粘B、粘B



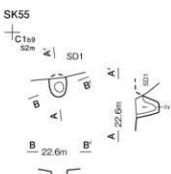
SK46号土坑土層解説

- 1 10YR4-4 褐色 ローム小C・粒C / 粘B、粘B



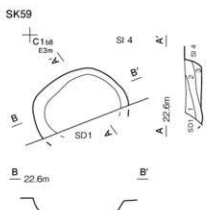
SK53号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D / 粘B、粘B
 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒D、炭化物D / 粘B、粘B



SK55号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小D・粒D / 粘B、粘B
 2 10YR4-4 褐色 ローム小C・粒B / 粘B、粘B



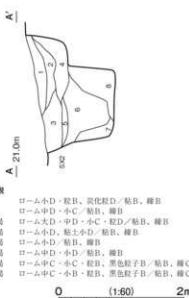
SK59号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒D / 粘B、粘B
 2 10YR3-2 黒褐色 ローム小D・粒C / 粘B、粘B
 3 10YR3-2 黒褐色 ローム粒D / 粘B、粘B



SK60号土坑土層解説

- 1 10YR4-4 褐色 ローム小D・粒B、炭化粒D / 粘B、粘B
 2 10YR4-4 褐色 ローム中D・小C / 粘B、粘B
 3 10YR3-4 暗褐色 ローム大D・中D・小C・粒D / 粘B、粘B
 4 10YR3-4 暗褐色 ローム小D、粒土小D / 粘B、粘B
 5 10YR3-3 暗褐色 ローム小D / 粘B、粘B
 6 10YR3-4 暗褐色 ローム中D・小D / 粘B、粘B
 7 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C・粒B、黑色粒子B / 粘B、粘B
 8 10YR3-4 暗褐色 ローム中C・小B・粒B、黑色粒子B / 粘B、粘B



第 38 図 時期不明の土坑実測図 (3)

第25表 時期不明の土坑一覧 (第36～38図)

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規 模 | | 壁 面 | 底 面 | 覆 土 | 主な出土遺物 | 備 考 |
|----|-------|---------|----------|---------------|---------|-------|-----|-----|--------------|--------------------|
| | | | | 長径×短径 (cm) | 深さ (cm) | | | | | |
| 1 | B 1f0 | N-26°-W | 楕円形 | 0.76 × 0.57 | 32 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 2 | B 1e0 | N-3°-W | 楕円形 | [0.55] × 0.49 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | |
| 4 | B 1f0 | N-35°-W | 楕円形 | 1.10 × 0.98 | 14 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器 土師器 | |
| 12 | B 2b1 | N-2°-E | 不整楕円形 | 2.35 × 0.53 | 50 | 外傾 | 有段 | 人為 | 縄文土器 土師器 須恵器 | SK13→本跡 |
| 13 | B 2b1 | N-3°-W | 楕円形 | 0.75 × [0.63] | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | 本跡→SK12 |
| 15 | B 2c1 | N-38°-W | 楕円形 | 0.93 × 0.79 | 15 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | |
| 20 | A 2b2 | N-17°-E | [楕円形] | 0.97 × (0.25) | 29 | 外傾・直立 | 平坦 | 人為 | | |
| 21 | B 1f0 | - | 円形 | 0.87 × 0.85 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 土師器 | SI 1, SK22→本跡 |
| 22 | B 1f0 | N-25°-E | 楕円形 | 0.80 × (0.72) | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | SI 1→本跡→SK21 |
| 37 | C 1b7 | N-12°-W | 楕円形 | 0.64 × 0.50 | 76 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | |
| 39 | B 1f0 | - | 円形 | 1.45 × 1.45 | 47 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器 石器 | SK40→本跡 |
| 44 | B 1f0 | N-22°-E | 楕円形 | 1.10 × 0.54 | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 土師器 石器 | SI 3→本跡 |
| 45 | C 1e9 | N-57°-W | 楕円形 | 0.60 × 0.50 | 40 | 外傾 | 有段 | 人為 | | |
| 46 | C 1b9 | N-28°-W | [楕円形] | [0.60] × 0.48 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | SK47→本跡→SD 1 |
| 53 | C 1b8 | N-43°-E | [楕円形] | 0.55 × [0.45] | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 土師器 | SI 4, SK59→本跡→SD 1 |
| 55 | C 1b9 | N-14°-W | [楕円形] | [0.37] × 0.27 | 37 | 外傾・直立 | 皿状 | 人為 | | SI 4→本跡→SD 1 |
| 59 | C 1b8 | N-69°-E | [円形・楕円形] | 1.52 × (0.98) | 27 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器 | SI 4→本跡→SK53, SD 1 |
| 60 | C 1h5 | N-48°-E | 長方形 | 1.88 × 0.70 | 95 | 外傾 | 有段 | 人為 | | SX 2→本跡 |

(3)ピット群(第39図 第26～28表)

第26表 第1号ピット群ピット一覧

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規 模 (cm) | |
|----|-------|-------|-------------|----|
| | | | 長径(米)×短径(米) | 深さ |
| 1 | B 1f0 | [円形] | 57 × [56] | 14 |
| 2 | B 1e9 | 円形 | 40 × 39 | 24 |
| 3 | B 1e0 | 楕円形 | 45 × [35] | 15 |
| 4 | B 1e0 | 楕円形 | 38 × 27 | 63 |
| 5 | B 1e0 | [楕円形] | [35] × [27] | 23 |

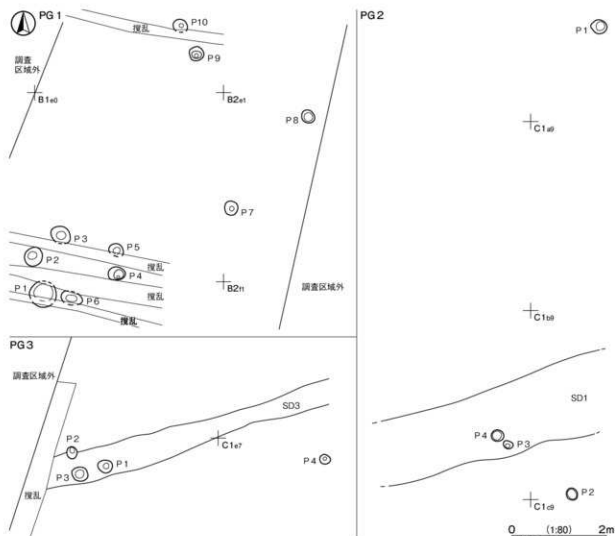
| 番号 | 位置 | 平面形 | 規 模 (cm) | |
|----|-------|-------|-------------|----|
| | | | 長径(米)×短径(米) | 深さ |
| 6 | B 1f0 | [楕円形] | 47 × [28] | 20 |
| 7 | B 2e1 | 円形 | 32 × 30 | 25 |
| 8 | B 2e1 | 円形 | 30 × 28 | 10 |
| 9 | B 1d0 | 円形 | 32 × 31 | 55 |
| 10 | B 1d0 | [楕円形] | 32 × [26] | 73 |

第27表 第2号ピット群ピット一覧

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規 模 (cm) | |
|----|-------|-----|-------------|----|
| | | | 長径(米)×短径(米) | 深さ |
| 1 | B 1f0 | 楕円形 | 35 × 30 | 22 |
| 2 | C 1b9 | 楕円形 | 27 × 24 | 13 |
| 3 | C 1b8 | 楕円形 | 22 × 16 | 32 |
| 4 | C 1b8 | 円形 | 27 × 25 | 13 |

第28表 第3号ピット群ピット一覧

| 番号 | 位置 | 平面形 | 規 模 (cm) | |
|----|-------|-----|-------------|----|
| | | | 長径(米)×短径(米) | 深さ |
| 1 | C 1e6 | 楕円形 | 31 × 28 | 33 |
| 2 | C 1e6 | 楕円形 | 25 × 22 | 13 |
| 3 | C 1e6 | 楕円形 | 35 × 30 | 27 |
| 4 | C 1e7 | 円形 | 23 × 21 | 63 |



第39図 第1・2・3号ピット群実測図

(4) 不明遺構

第2号不明遺構 (第40図)

位置 調査区南部のC11h5～C116区、標高約21mの埋没谷の緩斜面部に位置している。

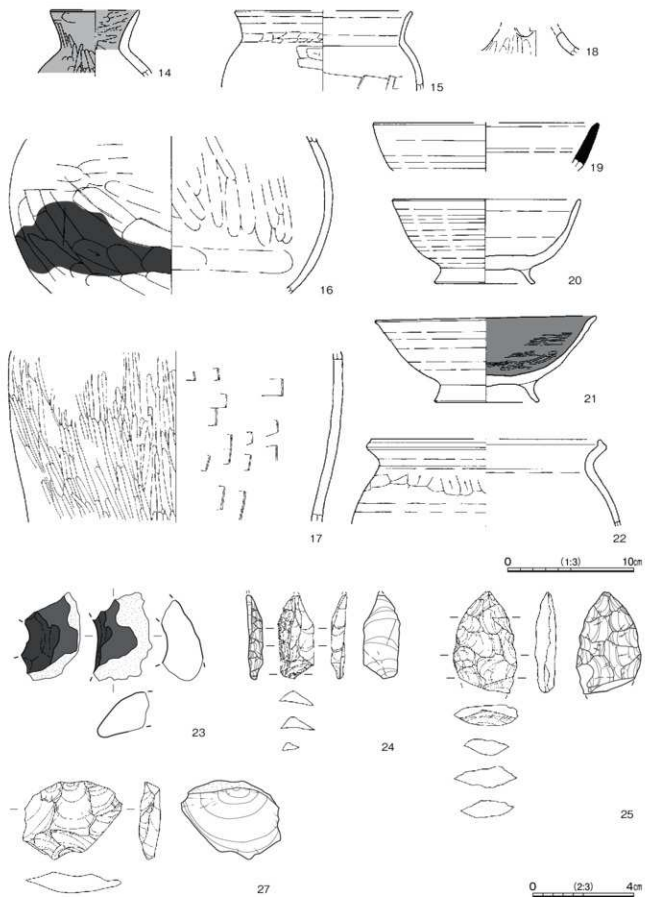
重複関係 第60号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部と南部が調査区域外のため、確認できた規模は東西幅6.74m、南北幅1.55mである。軸方向はN-86°-Eである。深さは130cmで、底面は平坦である。確認できた北壁は外傾している。本跡の南東部で湧水したため、調査可能な範囲を記録した。

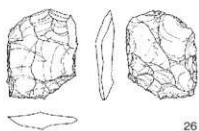
覆土 6層に分层できる。各層にロームブロックなどを多く含み、特に第3～6層の締まりが弱いことから人為堆積である。第1層上面から第60号土坑の上面にかけての幅27mは、やや硬化している。

遺物出土状況 混入した縄文土器片3点(深鉢)が出土している。

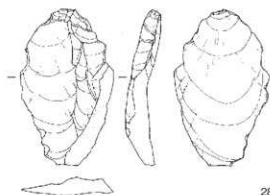
所見 本跡に伴う遺物がないため、時期は不明である。形状から溝跡と想定できるが、第1層上面から第60号土坑の上面にかけての硬化範囲は、後世の道路跡と考えられる。



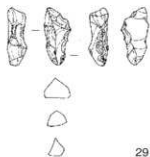
第42图 遺構外出土遺物実測図(2)



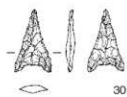
26



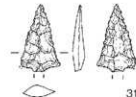
28



29



30

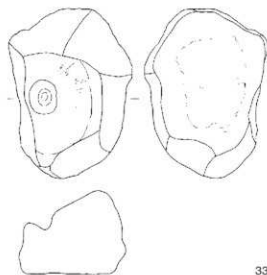


31

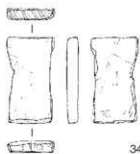
0 (2:3) 4cm



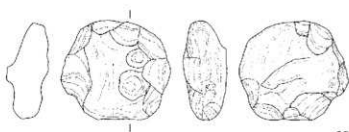
32



33



34



35

0 (1:3) 10cm

第43图 遺構外出土遺物実測図(3)

第29表 遺構外出土遺物一覧(第41～43図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|------|-------|-------|------|------------------------------------|-------|----|---|------|-------------------|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (47) | - | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部半軌行管による斜位平行沈線文 胴部半軌行管による単位平行沈線文 | 表土 | 5% PL. 5 田中下層式 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (38) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 平行太沈線と斜位細沈線による区画内縦位太卑沈線文 | 表土 | 5% PL. 5 田中下層式 |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (43) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 刻みのある微隆起線による区画文 | SK40 | 5% PL. 5 田中上層式 |
| 4 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (67) | - | 長石・石英・赤色粒子・黒色粒子・磁石・磁石・赤色粒子・黒色粒子・磁石 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部明み 胴部外面横位条状文 縦位条状文 内面横位条状文 外面横位条状文 | SK57 | 5% PL. 5 山田上層式 |
| 5 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (78) | - | 長石・石英・赤色粒子・黒色粒子・磁石 | 橙 | 普通 | 内外面縦位条状文 | SK34 | 5% PL. 5 山田式 |
| 6 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (29) | - | 長石・石英・赤色粒子・磁石 | 橙 | 普通 | 楕形把手 口上半部LR横文 胴面取体横位条状文による刻み | SK57 | 5% PL. 5 花積下層式 |
| 7 | 縄文土器 | 甕 | [140] | (44) | - | 長石・石英・赤色粒子・磁石 | 橙 | 普通 | 無文口唇部沈線1条 8と同一個体 | SK20 | 5% PL. 5 花積下層式 |
| 8 | 縄文土器 | 甕 | - | (28) | - | 長石・石英・赤色粒子・磁石 | にぶい赤黒 | 普通 | 7と同一個体 | 表土 | 5% |
| 9 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (28) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 横位平行沈線文・半軌行管による押し引き文 | 表土 | 5% PL. 5 浮島式 |
| 10 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (74) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄 | 普通 | 口縁部3段の輪模刻・微隆起 胴部沈線1条懸垂 | SK40 | 10% PL. 5 浮島式 |
| 11 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (28) | - | 長石・石英・赤色粒子・磁石 | にぶい赤黒 | 普通 | 横位沈線文・羽状の貝殻線文 | SK39 | 5% PL. 5 浮島式 |
| 12 | 縄文土器 | 深鉢 | - | (46) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 灰黒 | 普通 | 半軌行管による集合沈線文施文後半タ状粘付 | SK50 | 5% PL. 5 浮島式 |
| 13 | 縄文土器 | 浅鉢 | - | (26) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 沈線2条 沈線部前半LR横文施文 | 表土 | 5% PL. 5 松本寺式 |
| 14 | 土師器 | 甕 | [70] | (53) | - | 長石・石英・赤色粒子・黒色粒子 | にぶい黄 | 普通 | 口唇部・口縁部内面横位ヘラナゲ 口縁部・体部外面横位ヘラナゲ 口縁部・体部外面赤線 | 表土 | 40% PL. 5 |
| 15 | 土師器 | 甕 | [138] | (63) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部横ナゲ 体部外面横位ヘラナゲ 体部内面横位ヘラナゲ | SD 1 | 10% |
| 16 | 土師器 | 甕 | - | (125) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 明赤黒 | 普通 | 体部外面上部横位ヘラナゲ 下部斜位ヘラナゲ 内面縦・横位ヘラナゲ | 表土 | 5% PL. 5 浮島式 |
| 17 | 土師器 | 甕 | - | (136) | - | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面縦位ヘラナゲ 内面横位ヘラナゲ | SD 1 | 20% PL. 5 |
| 18 | 土師器 | 甕 | - | (21) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 赤黒 | 普通 | 胴部外面縦位ヘラナゲ 円孔透かし | 表土 | 5% |
| 19 | 埴原器 | 坏 | [176] | (38) | - | 長石・石英 | 灰 | 普通 | 内外面口クロナゲ | SD 1 | 10% PL. 5 |
| 20 | 土師器 | 高台付甕 | 14.8 | 6.7 | 7.8 | 長石・石英・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 口縁部・体部口クロナゲ 体部内面・高台部ナゲ | 表土 | 80% PL. 5 |
| 21 | 土師器 | 高台付甕 | 17.4 | 6.8 | (80) | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部・体部口クロナゲ 体部内面横位ヘラナゲ 口縁部・高台部ナゲ | 表土 | 70% PL. 5 |
| 22 | 土師器 | 甕 | [186] | (69) | - | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部横ナゲ 体部外面上部縦位ヘラナゲ 下部横ナゲ | 表土 | 5% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|------|------|------|---------|-------|-------|------------------------------------|------|------|
| 23 | 羽口 | (35) | (23) | (23) | (13.56) | 長石・石英 | にぶい赤黒 | 径 [60] cm 孔径 [20] cm 先端部内外面黄熟・ガラス化 | 表土 | PL 6 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|--------------------|--------|-----|---------|---------|-----------|-------------------------------------|------|------|
| 24 | ナイフ 粘土彫刻 土師器 | (3.3) | 1.4 | 0.5 | (2.49) | チャート | 素材縦長割片 一側縁と基部にフアンディング加工 背面割縁痕 先端部欠損 | SK40 | PL 6 |
| 25 | 粘土彫刻 土師器 | 4.0 | 2.5 | 0.8 | 7.30 | ガラス質黒色安山岩 | 素材縦長割片 両面押圧調整調整 基部欠損 | SI 2 | PL 6 |
| 26 | 黄銅石 | 3.6 | 3.8 | 0.7 | 6.49 | チャート | 上下左右両方向からの割縁痕 | SK19 | PL 6 |
| 27 | 割片 | 3.1 | 3.9 | 0.8 | 9.76 | 頁岩 | 背面多方向からの割縁痕 自然面残す | SI 4 | |
| 28 | 割片 | 6.2 | 3.7 | 1.4 | 19.28 | ガラス質黒色安山岩 | 縦長割片 背面上部からの同一方向の割縁痕 自然面残す 断面直 | SD 1 | PL 6 |
| 29 | 二次加工の 粘土彫刻 | 2.3 | 1.1 | 0.6~0.8 | 1.63 | 瑪瑙 | 断面三角形の各側縁 押圧調整調整 | SX 1 | PL 6 |
| 30 | 石鏝 | 2.5 | 1.4 | 0.4 | 0.68 | チャート | 凹基無差 両面押圧調整調整 | SK39 | PL 6 |
| 31 | 石鏝 | (2.65) | 1.5 | 0.5 | (1.26) | チャート | 凹基有差 両面押圧調整調整 一部欠損 | 表土 | PL 6 |
| 32 | 磨石 | 6.5 | 5.5 | 3.9 | (21.37) | 安山岩 | 両面凹縁 側面敲打痕1ヶ所 凹石・磨石兼用 | SI 4 | PL 6 |
| 33 | 凹石 | 13.4 | 9.8 | 6.6 | 77.50 | 多孔質安山岩 | 凹部1ヶ所 石鏝兼用 | SD 2 | PL 6 |
| 34 | 砥石 | 6.9 | 3.8 | 0.9 | 39.73 | 凝灰岩 | 砥面3面 多方向の磨痕 砥面2面側面倒り 長さ2側面欠損 | 表土 | PL 6 |
| 35 | 砥石 | 7.8 | 8.7 | 3.5 | 274.52 | 雲母片岩 | 両縁部敲打痕 凹面2ヶ所 凹石兼用 | SI 4 | PL 6 |

第4節 総括

今回の調査では、堅穴建物跡4棟、土坑46基、溝跡3条、不明遺構2基などを確認し、旧石器時代から平安時代までの遺物が出土した。その結果、旧石器時代以降の断続的な土地利用状況が明らかになった。ここでは、当遺跡の北側に隣接する中道遺跡と谷を隔てた南側に位置する和台遺跡の調査成果^{1~3)}を中心に周辺遺跡も含めながら時代順に概観したい。

1 旧石器時代

後世の遺構覆土などから、ナイフ形石器や槍先形尖頭器、剥片などが出土した。石材は、頁岩やチャート、ガラス質黒色安山岩など多様である。周辺遺跡では、中道遺跡や和台遺跡、前田村遺跡、西ノ脇南遺跡、高野台遺跡、東耕地北遺跡で旧石器時代の石器が確認されており、小貝川低地から入り込む樹枝状の支谷に面した台地縁辺部という共通した立地の特徴がある。前田村遺跡と東耕地北遺跡では、石器集中地点が確認されており^{4,5)}、中道遺跡や和台遺跡でも石器や剥片が複数確認されていることから、周辺に石器製作跡が存在する可能性がある。遺跡が立地する筑波・稲敷台地南西部の台地縁辺は、旧石器時代に活発に利用されていたことがうかがわれる。

2 縄文時代

堅穴建物跡1棟、土坑23基を確認した。土坑の多くは底面の中央や壁際にピットをもち、壁が外傾や直立しており、その形状から貯蔵穴とみられる。時期は中期後葉の加曾利EⅠからⅡ式期までのもので、主体は加曾利EⅡ式期である。堅穴建物跡も該期の所産とみられる。今回の調査区の北側に隣接する中道遺跡では、加曾利EⅠからⅡ（報告文中ではEⅠから3）式期の堅穴建物跡6棟が貯蔵穴群を囲むように北西から南東方向に弧状に確認されている。今回の調査では、堅穴建物跡と貯蔵穴群が調査区南部に南北幅30mほどの帯状に分布することを確認した。中道遺跡の建物跡・貯蔵穴群からは離れた位置にあるが、同時期の所産と考えられ、断定はできないものの同一集落を構成していたものと考えられる。調査区の南端には埋没谷があり、縄文時代の遺構が確認されていないことや、西側も谷部に面していることから、中道遺跡と同一集落であるとすれば、その規模は、南北100m、東西80mほどの範囲に広がるものと想定される。出土した土器片の時期の内訳は、早期96点、前期195点、中期1259点、後期1点で、早期は後葉の茅山式、前期は前葉の花積下層式から後葉の浮島式、中期は後葉の加曾利E式がほとんどであり、後期は前葉の称名寺式とみられる。中道遺跡では、前期中葉の黒浜式を主体として早期後葉（茅山式）から晩期前葉（安行3a式）の土器が少量ではあるが出土している。和台遺跡でも断続的ながら早期後葉を主体として早期から晩期までの土器が出土している。当遺跡を含む周辺が縄文時代を通して断続的に利用されていたことがうかがえる。特に早期後葉の土器片は、当遺跡と和台遺跡で比較的多く出土しており、和台遺跡では陥穴2基も確認されている。小貝川低地から入り込む支谷の最奥部の台地縁辺は、早期後葉にキャンプサイトなどとして利用されていたことが想定される。

3 古墳時代

堅穴建物跡1棟、土坑1基、不明遺構1基を確認した。遺構は、いずれも前期に位置付けられ、調査区南

部でまとまって確認した。中道遺跡では古墳時代の遺構・遺物ともに確認されておらず、和台遺跡では後期の竪穴建物跡2棟が確認されているが、前期にさかのぼる遺構は確認されていない。今回の調査区の南部、谷頭の縁辺部に該期の集落が広がっていたことが推定される。周辺遺跡では、前田村遺跡で前期の竪穴建物跡26棟が確認されており、その関係が目目される。

4 平安時代

竪穴建物跡2棟、土坑4基を確認した。時期は、9世紀中葉から10世紀後葉までで、集落が一定の期間営まれていたことがわかった。中道遺跡では、竪穴建物跡22棟、掘立柱建物跡2棟、土坑7基以上、多数のピットが確認されている。竪穴建物跡は、南北約280m、東西約40mの調査区全体に広がっているが、中ほどに南北60mほどの空白地帯があり、分布が北部と南部に二分されている。時期は、9世紀前葉から10世紀前葉とされる。26棟中22棟がその南部にあり、分布に偏りがみられる。今回、当遺跡で確認した第2号竪穴建物跡は南部の1群に近接しており、その一部をなすものとみられる。第3号竪穴建物跡はさらに40mほど南で確認されており、その間には2基の土坑が確認されているのみである。限られた調査のため確認はないが、中道遺跡と同様に空白地帯をもって集落が構成されていた可能性が考えられる。また、和台遺跡では、竪穴建物跡9棟、溝跡1条、土坑1基が確認されている。竪穴建物跡の多くは9世紀中葉から後葉で、10世紀前葉の可能性のあるものは1棟で、9世紀から10世紀に継続的に営まれていたことがわかっていて、これらのことから、当遺跡を含む周辺は、9世紀から10世紀までの平安時代を通して集落が継続的に営まれていたことが明らかになった。

5 その他

時代や性格が明確にできなかった遺構の中で、第1～3号溝跡は平行しており、何らかの関連があるものと考えられる。谷部に向かっており、排水路や道路の側溝などが考えられるが、その機能は不明と言わざるを得ない。第2号不明遺構は、全体像を確認できなかったことや、覆土が人為堆積で整地層の様相を呈していたことから、不明遺構としたが、溝跡の可能性もある。本跡の位置は、東西の低地から延びる支谷により台地の幅が狭まった箇所であり、溝跡であれば中世の堀跡などの可能性も考えられる。

今回の調査で、当遺跡は旧石器時代や縄文時代早期にはキャンプサイトなどの活動領域であったこと、縄文時代・古墳時代・平安時代には集落が営まれていたことが明らかになった。また、縄文時代と平安時代の集落は隣接する中道遺跡と一体のものであった可能性が高い。

今後の調査の進展により、周辺地域の歴史の実像がより明らかになることを期待したい。

註

- 1) 渡辺久生他「中道遺跡」『東横戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』2012年10月
- 2) 河野一也他「和台遺跡」『東横戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』2012年3月
- 3) 河野一也他「和台遺跡 第2次調査」『東横戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』2014年2月
- 4) 吉原作平「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 西ノ脇遺跡・前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第87集 1994年3月
- 5) 茨城県教育委員会「茨城の文化財 第58集(令和元年度)」2020年3月

写 真 图 版



調查区全景



基本層序



第1号豎穴建物跡



第2号豎穴建物跡



第2号豎穴建物跡 竈



第3号豎穴建物跡



第4号豎穴建物跡



第4号豎穴建物跡 炉

PL2



第1号沟迹



第3号沟迹



第1号不明遺構



第23号土坑



第38号土坑 遺物出土状況



第40号土坑



第49号土坑



第58号土坑



第1号竖穴建物跡、第17・23・30・38・40・49・54・57・58号土坑出土遺物

PL4



第2·3·4号竖穴建物跡、第3·5·19·35·48号土坑、第1号不明遺構出土遺物



遺構外出土遺物 (1)



抄 録

| | | | | | | | | |
|--------------|---|-------------------|--------------------------|------------------------|----------------------------------|---------------------------|------|--------------------------|
| ふりがな | おおほりいせき | | | | | | | |
| 書名 | 大堀遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | つくばみらい福岡地区土地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 茨城県教育財団文化財調査報告第471集 | | | | | | | |
| 著者名 | 池田晃一 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人茨城県教育財団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587 | | | | | | | |
| 発行日 | 2024(令和6)年1月22日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 標高 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 大堀遺跡 | 茨城県つくばみらい市大字南字大堀1989-1ほか | 08483 - 037 | 36度 0分 53秒 | 140度 2分 11秒 | 20m | 20210701 ~ 20210831 | 742㎡ | つくばみらい市福岡地区土地造成事業に伴う事前調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 大堀遺跡 | 集落跡 | 縄文 | 竪穴建物跡 土坑 | 1棟 23基 | 縄文土器(深鉢・浅鉢・壺・有孔罎付土器) | | | |
| | | 古墳 | 竪穴建物跡 土坑 不明遺構 | 1棟 1基 1基 | 土師器(坏・高坏・壺・甕・ミニチュア)、石製品(管玉) | | | |
| | | 平安 | 竪穴建物跡 土坑 | 2棟 4基 | 土師器(坏・高台坏碗・皿・甕)、須恵器(坏・甕・飯) | | | |
| | その他 | 時期不明 | 溝跡 土坑 ピット群 不明遺構 | 3条 18基 3か所 1基 | 土製品(羽口)、石器(尖頭器・楔形石器・剥片・石鏃・凹石)、鉄滓 | | | |
| 要約 | 縄文時代から平安時代にかけて、断続的ではあるが集落が営まれていたことが明らかとなった。縄文時代と平安時代の集落は、隣接している中道遺跡と一体のものである可能性が高い。 | | | | | | | |

印刷仕様

| | | |
|--------|----------|--|
| 編集 | OS | Microsoft Windows 10 Pro |
| | 編集 | Adobe InDesign 2023 |
| | 図版作成 | Adobe Illustrator 2023 |
| | 写真調整 | Adobe Photoshop 2023 |
| | Scanning | EPSON DS-G20000 |
| 使用Font | OpenType | リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium |
| 写真 | 線数 | カラー210線以上 |
| 印刷 | | 印刷所へは、Adobe InDesign 2022 でデータ入稿 |

茨城県教育財団文化財調査報告第471集

つくばみらい市

大堀遺跡

つくばみらい福岡地区土地造成
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和6（2024）年1月22日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社
〒319-1112 茨城県那珂郡東海村松字平原3115-3
TEL 029-282-0370